

大阪府教育庁文化財調査事務所年報

21

2017年11月

大阪府教育委員会

はじめに

文化財調査事務所は、平成9年に総合的な文化財調査の拠点施設として開設され、主として埋蔵文化財の調査と保護、整理・収蔵を担う拠点としての機能を果たしてきました。この間、経済的・社会的状況は著しく変化しており、全国の埋蔵文化財の発掘調査費用も開発事業量とともに大きく減少しています。当調査事務所においても同様に公共の大規模開発事業関連調査は減少の傾向にありますが、その一方で道路拡幅や歩道設置、学校等の耐震補強など比較的小規模な事業に伴う調査は増加傾向にあり、埋蔵文化財保護に対する綿密な対応が求められているところです。

また、百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録推進をはじめ、府民の方々の文化財に対する関心は高まり、文化財の保存とともに公開・活用がより一層強く求められる時代となっています。

調査事務所では必要な調査を適切に実施し、調査成果を迅速に公開できるよう、調査実施前の協議調整から、発掘調査の実施、出土遺物や資料の整理作業、報告書の刊行といった一連の業務を組織的に行っています。また、府民の方々の多様なニーズに応えられるよう、収蔵した膨大な資料のデータ整理を行い、公開・活用できるよう努めています。

今後とも文化財が国民の財産であるという原点に基づき、文化財保護行政の遂行に努める所存です。皆様方のご支援とご協力を切にお願いいたします。

平成29年11月

大阪府教育庁文化財保護課長

森屋 直樹

例 言

1. 本書は大阪府教育庁文化財調査事務所年報第 21 冊である。
2. 本書には平成 28 年度に文化財調査事務所が実施した埋蔵文化財調査報告及び公開活動等の記録を記載している。
3. 埋蔵文化財調査概要報告の表題に示す数字列及び番号は以下の内容を示している。
なお、概要報告表題の調査番号は表 3 の調査番号に一致する。
遺跡名（平成 28 年度調査番号）
 - (1) 所在地
 - (2) 調査の原因となった事業
 - (3) 調査担当者
4. 各項の執筆分担
 - ・「平成 28 年度における埋蔵文化財調査の概況」 調査事業グループ
 - ・「主要発掘調査の概要報告」 調査事業グループ
 - ・「資料紹介」 調査管理グループ
 - ・「事業報告」 調査管理グループ
5. 本書の編集は、調査管理グループが行った。
6. 本書は 500 部作成し、一部当たりの単価は 228 円である。

目 次

はじめに

例 言

目 次

挿図目次 表目次 グラフ目次

平成 28 年度における埋蔵文化財調査の概況 1

【主要発掘調査の概要報告】

府中遺跡	(16001)	6
久宝寺遺跡	(16002)	8
宮園遺跡	(16015)	9
七ノ坪遺跡	(16019)	11
西福井遺跡	(16024)	12
山坂遺跡	(16028)	13
宮町遺跡	(16029)	14
安松田遺跡隣接地	(16030)	15
宰相山遺跡	(16031)	17
豊浦谷古墳群	(16052)	19

【資料紹介】

藤の森古墳に副葬された鉄銚	20
日下遺跡から出土した韓式系土器	22
冨形埴輪の新資料－土師の里遺跡 1976～1979年の調査から－	26

【事業報告】

文化財調査事務所での普及・啓発・公開事業	30
平成 28 年度収蔵資料	32
平成 28 年度調査・研究等の検討会	32
平成 28 年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行物一覧	32
平成 28 年度資料貸出・掲載・閲覧事業一覧	35
平成 28 年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図	

挿図目次

図1 平成28年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図	4	図33 第1調査区平面図	16
図2 主要調査位置図	5	図34 第2調査区平面図	16
図3 府中遺跡調査区位置図	6	図35 第1調査区全景(南から)	16
図4 B区南半部竪穴建物検出状況(北から)	6	図36 第2調査区全景(南西から)	16
図5 E区第2面全景(南から)	7	図37 第2調査区土坑4内遺物出土状況(北西から)	16
図6 D・E区土坑433遺物出土状況	7	図38 宰相山遺跡調査地位置図	17
図7 G区全景(南から)	7	図39 南北トレンチ西壁と溝	17
図8 久宝寺遺跡調査地位置図	8	図40 西壁断面図及び出土土器実測図	18
図9 模式柱状図	8	図41 豊浦谷古墳群調査地位置図	19
図10 宮園遺跡調査地点位置図(○印)	9	図42 調査地全景(北東から)	19
図11 調査区配置図	9	図43 藤の森古墳に副葬された鉄銚	21
図12 第1調査区土坑群(南から)	10	図44 日下遺跡調査地位置図	22
図13 第2調査区全景(西から)	10	図45 韓式系(陶質)土器 壺	23
図14 第2調査区 土坑内の中世土器(南西から)	10	図46 韓式系(陶質)土器	23
図15 第3調査区 土坑内の奈良時代甕(北から)	10	図47 韓式系土器、須恵器系土器実測図	24
図16 七ノ坪遺跡調査地位置図	11	図48 韓式系土器 移動式カマド	25
図17 作業風景	11	図49 韓式系土器 羽釜・甑	25
図18 出土遺物実測図	11	図50 日下遺跡古代馬出土状況(堅田直氏撮影)	25
図19 弥生・古墳時代前期の遺構分布図	11	図51 土師の里遺跡調査区位置図	26
図20 西福井遺跡調査地位置図	12	図52 囲形埴輪実測図(1)	27
図21 調査区全景(南から)	12	図53 囲形埴輪集合写真	28
図22 土坑010 人骨出土状況(南から)	12	図54 囲形埴輪実測図(2)	28
図23 山坂遺跡調査地位置図	13	図55 囲形埴輪実測図(3)	29
図24 調査区位置図	13	図56 中学生の職場体験	30
図25 調査区1全景(南から)	13	図57 大学生のインターンシップ	30
図26 調査区2全景(南から)	13	図58 府中遺跡現地公開	30
図27 宮町遺跡調査地位置図	14	図59 和泉池上文化財収蔵庫の特別公開	30
図28 調査区全景(上が北)	14	図60 文化財調査事務所の見学会	31
図29 調査区東半(西から)	14	図61 「大和川今池遺跡の調査成果展」講演会	31
図30 掘立柱建物2(北から)	14	図62 府立弥生文化博物館・弥生プラザ 「発見された粘土採掘穴―池田市柳原遺跡―」	31
図31 安松田遺跡隣接地調査地位置図	15	図63 小学6年生の出前授業	31
図32 調査区位置図	15		

表目次

表1 原因別調査面積・件数一覧(面積:m ²)	1	表5 実物資料・複製資料長期貸出	35
表2 地域別調査面積・件数一覧(面積:m ²)	1	表6 実物資料・複製資料短期貸出	36
表3 平成28年度調査箇所一覧	3	表7 資料撮影、写真・図面等貸出・掲載	38
表4 平成28年度 文化財調査事務所での普及・啓発・公開 事業一覧	33	表8 資料閲覧	41

グラフ

グラフ1 原因別調査面積	1	グラフ3 地域別調査面積	2
グラフ2 原因別調査件数	2	グラフ4 地域別調査件数	2

平成 28 年度における埋蔵文化財調査の概況

調査件数と面積

大阪府教育委員会が平成 28 年度に実施した調査件数は、発掘調査が 4 件、確認調査が 10 件、立会調査が 34 件、試掘調査 4 件の合計 52 件であった。

なお、調査面積の算出が困難な立会調査を除くと、発掘調査、試掘調査、確認調査の調査面積の合計は 10,510㎡である。調査件数については前年度（平成 27 年度）の 45 件から 7 件増加しており、調査面積は前年度比 215%でほぼ倍増している。

過去 10 年における調査件数、調査面積のデータを概観すると、調査件数については、年度によって多寡があるものの、全体的にはここ数年は減少傾向である。平成 28 年度は前年度に比べ微増である。また調査面積については、平成 23 年度、25 年度に前年度より増加し、平成 28 年度についても前年度より倍増したが、全体的には減少傾向であるということができ、平成 28 年度は、平成 19 年度比で約 38%となっている。ちなみに表 1、表 2 には記載はないが、平成 18 年度の調査面積は 31,525㎡であり、平成 28 年度はその約 33%である。道路建設や住宅建築における新規事業等の減少が、調査件数や面積の減少傾向の要因と考えられる。

表 1 に示したとおり、調査原因別で面積の推移をみると、平成 28 年度は、住宅事業で新規事業があったため、面積が大幅に増加している。また道路事業においても前年度より増加しているものの、下水事業、学校事業については、発掘調査の案件がなく、調査面積は 0 であった。

次に表 2 に示した地域別における状況を見ると、

表 1 原因別調査面積・件数一覧（面積：㎡）

	19 年度		20 年度		21 年度		22 年度		23 年度		24 年度		25 年度		26 年度		27 年度		28 年度	
	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数												
住宅	11,169	10	488	8	1,799	9	6,454	14	6,227	12	124	9	727	10	1,800	5	108	8	4,616	7
農林	1,564	5	672	3	587	4	1,754	4	1,254	3	1,741	3	1,995	4	959	4	264	2	20	2
道路	11,422	24	10,468	17	5,629	21	4,968	27	5,255	20	6,404	25	6,988	22	2,138	8	3,778	17	5,239	11
下水	180	3	7,787	5	6,417	8	1,011	16	1,650	9	16	1	8	1	0	1	118	2	0	2
河川	204	2	10	2	0	1	36	4	0	1	48	1	0	0	0	2	0	2	0	2
学校	12	1	140	1	361	5	0	1	318	2	78	3	760	4	10	2	50	1	0	6
その他	2,788	15	298	9	3,189	16	563	30	888	33	2,120	43	4,155	23	4,535	23	597	13	635	22
合計	27,339	60	19,863	45	17,982	64	14,786	96	15,592	80	10,531	85	14,633	64	9,442	45	4,915	45	10,510	52

表 2 地域別調査面積・件数一覧（面積：㎡）

	19 年度		20 年度		21 年度		22 年度		23 年度		24 年度		25 年度		26 年度		27 年度		28 年度	
	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数												
大阪市	0	0	96	2	30	2	85	4	3,209	10	98	3	414	5	2,621	3	22	3	150	7
泉南	4,069	8	438	5	2,100	6	1,534	6	449	6	81	8	865	4	0	4	240	2	361	4
泉北	6,519	8	6,857	10	3,822	7	4,444	9	1,552	7	1,166	6	1,139	5	0	2	2,757	6	9,181	11
南河内	6,534	9	9,660	11	7,945	10	2,620	12	1,691	9	3,985	14	7,367	11	1,742	9	653	11	619	8
中河内	2,104	11	322	3	190	14	1,212	28	2,224	13	1,091	21	686	18	317	9	141	10	135	9
北河内	4,940	10	1,995	9	3,619	13	3,616	21	2,086	12	1,391	9	116	5	559	5	800	3	0	4
三島	2,969	10	495	5	89	6	1,205	11	2,336	20	2,673	22	712	15	867	10	254	5	60	7
豊能	204	4	0	0	187	6	70	5	2,045	3	46	2	3,334	1	3,336	3	48	5	4	2
合計	27,339	60	19,863	45	17,982	64	14,786	96	15,592	80	10,531	85	14,633	64	9,442	45	4,915	45	10,510	52

平成 28 年度は、泉北地域が面積において他地域より突出しており、前年度と比べても大幅に増加している。これは住宅事業と道路事業において新規事業に伴う発掘調査を実施したためである。一方で北河内、三島地域の調査面積は前年度に比べて大幅に減少している。

主な調査成果

平成 28 年度の調査成果については、6 頁以降において主な 10 の調査成果を掲載している。ここでは、これらのうち時代別に調査成果を概観する。

縄文時代

茨木市西福井遺跡では、縄文時代後期頃と推定される土坑を検出している。このうち土坑 010 と呼ばれる土坑内からは焼骨が多数出土しており、すべて人骨の可能性が高い。また複数個体あり、抜歯した下顎骨も認められる。府内でも稀な事例であり、今後の詳細分析の結果が待たれる。

弥生時代

和泉市府中遺跡では、遺構に伴うものではないが、中世遺構面から弥生時代中期の壺の底部や口縁部が出土している。また古代の遺構面の基盤層を形成する砂礫層中からは、後期後半から庄内式期にかけての土器片が出土しており、南を流れる槇尾川の支流などの氾濫によって形成された、砂礫層の所属時期を知るうえで貴重な調査事例となった。また泉大津市七ノ坪遺跡では、庄内式後半期に属する手焙形土器や高杯脚部などが出土している。付近の調査事例から当該期の自然流路から出土したものである。泉

佐野市安松田遺跡隣接地における試掘調査では、後期後半とみられる土坑を検出している。

古墳時代

和泉市府中遺跡では、前期後半から中期前半にかけての竪穴建物を検出している。当該期の自然流路の肩部に形成された小規模なもので、埋土からは土師器高杯、甕とともに、平行タタキメをもつ軟質韓式系土器甕が出土している。流路の堆積層からも当該期の土師器等が出土している。渡来系集落の様相をもつものとして注目される。富田林市宮町遺跡では、後期に属する掘立柱建物、落ち込み等を検出している。掘立柱建物は、2間×2間以上とみられる総柱の建物で、柱掘方は60～70cmの方形を主としている。

東大阪市豊浦谷古墳群では、後期に属する横穴式石室をもつ1号墳の調査を東大阪市教育委員会とともに実施した。石室規模、墳丘盛土の残存状況を確認するための調査であったが、調査区からは石室を構成する石を確認することはできなかったものの、平安時代以降に墳丘を削平して平坦面が形成されていることが明らかとなった。また石室とは別の石組みが存在することが明らかとなった。

古代

和泉市府中遺跡では、平安時代に属する掘立柱建物5棟、溝、土坑などを検出している。和泉国府や和泉寺が推定されている地域の周辺部における集落域の発見である。また集落近隣の自然流路を埋めて整地している様相も認められ、調査地における古代の土地利用が明らかにできる貴重な調査事例といえる。大阪市宰相山遺跡の調査では、7世紀頃にかけての柱穴を検出した。柱穴は掘立柱建物を構成するものとみられる。また東西方向の溝も検出している。柱穴よりは新しいとみられ、難波京との関連が想定される。確認調査のため小規模調査であったが、難波京との関連において貴重な調査事例である。

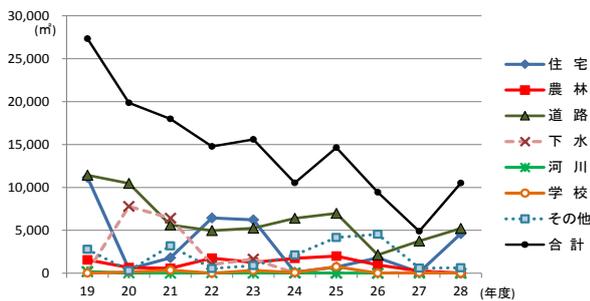
中世

和泉市府中遺跡では、14～15世紀頃に属する土坑群が多数検出されている。基盤層が砂礫層上の粘土層である部分に集中しており、粘土採掘のための土坑とみられる。その他耕作に伴う溝等を検出している。堺市宮園遺跡でも、14～15世紀頃に属する土坑群を検出している。不整円形や不定形の大型の土坑が重複して多数検出され、ほぼ完形の瓦質羽釜や播鉢などの土器が出土している。基盤層である粘土層上に分布しているため、粘土採掘のための土坑とみられる。泉佐野市安松田遺跡隣接地では、範囲確認のための試掘調査を実施している。これは瓦窯跡等の遺構の発見を目的として行ったものである。調査の結果、今年度の調査でも谷地形の存在が確認され、粘土採掘土坑とみられる土坑が複数みられたものの、瓦窯そのものは発見されなかった。

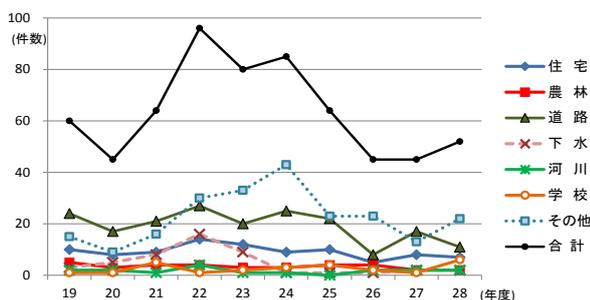
発掘調査現場の公開等と遺物整理事業

発掘調査現場の公開については、和泉市府中遺跡と堺市宮園遺跡において実施し、多数の参加を得た。また、茨木市教育委員会と共催として、茨木市西福井遺跡における調査成果について、過去に調査を実施した成果も含めて、ロビー展示および講演会を実施した。この他、発掘調査については、速報的に本

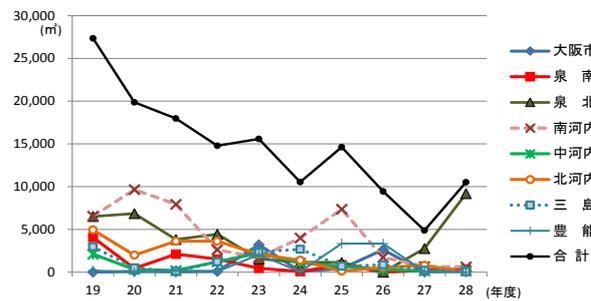
グラフ1 原因別調査面積



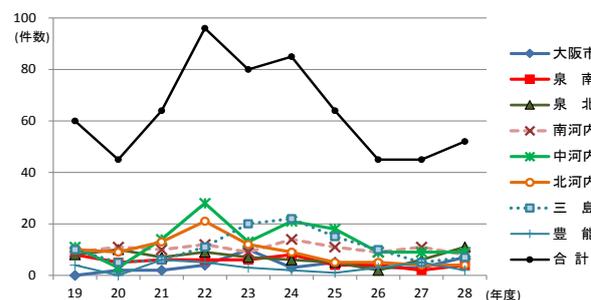
グラフ2 原因別調査件数



グラフ3 地域別調査面積



グラフ4 地域別調査件数



課のホームページに逐次掲載した。遺物整理事業は、7件実施し、調査報告書7冊を刊行している。

(岡田 賢)

表3 平成28年度調査箇所一覧(1)

太字は本書に概要報告が記載されているもの

調査番号	遺跡名	所在地	種別	調査開始	調査終了	調査面積 (㎡)	担当者	事業者	事業名
16001	府中遺跡	和泉市府中町五丁目	発掘	平成28年4月1日 (平成27年度から継続)	平成28年9月30日	4550	岩瀬 松岡	交通道路室 道路整備課	都市計画道路大阪岸和田南 海線街路築造事業
16002	久宝寺遺跡	八尾市西久宝寺	確認	平成28年5月23日	平成28年6月6日	100	市川 岡田	都市計画室 公園課	久宝寺緑地整備事業
16003	讃良郡条里遺跡	寝屋川市新家一丁目	立会	平成28年4月6日	平成28年7月7日	-	岡田	下水道室	萱島直送幹線(第1工区)下 水道管渠築造工事
16004	宮園遺跡	堺市中区宮園町	立会	平成28年4月12日	平成28年4月12日	-	山田 宮野	公共建築室 住宅設計課	府宮堺宮園住宅建替事業
16005	茄子作下浦遺跡	枚方市茄子作五丁目	立会	平成28年4月20日	平成28年4月20日	-	竹原	大阪広域水道企業 団東部水道事業所	維持管理用人孔設置工事(4 拡南部幹線)
16006	遺跡外	岸和田市稲葉町	試掘	平成28年5月12日	平成28年5月12日	20	山田	泉州農と緑の総合 事務所耕地課	府宮農村総合整備事業 「岸和田丘陵地区」
16007	向井池遺跡	泉佐野市上之郷	確認	平成28年5月17日	平成28年5月20日	225	山田	成長産業振興室	泉佐野丘陵部府有地(民活 地)における太陽光発電事業
16008	水越遺跡	八尾市服部川一丁目	立会	平成28年5月10日	平成28年5月10日	-	岡田 宮野 市川	下水道室	枚岡河内南幹線(二)(第2 工区)下水道管渠築造工事
16009	高城遺跡	吹田市吹東町	立会	平成28年5月16日	平成28年5月16日	-	岡田	大阪広域水道企業 団北部水道事業所	配水管布設 豊中正雀連絡 管1工区
16010	西福井遺跡	茨木市東福井二丁目	確認	平成28年5月23日	平成28年5月23日	6	辻本	大阪府警察本部 施設課	茨木警察署福井交番新築工 事
16011	府中遺跡	和泉市府中町	確認	平成28年6月27日	平成28年6月27日	3	松岡 岡田	交通道路室 道路整備課	都市計画道路大阪岸和田南 海線街路築造事業
16012	長橋遺跡	大阪市西成区花園北 一丁目	立会	平成28年6月3日	平成28年6月3日	-	大桑	大阪府警察本部 施設課	西成警察署萩之茶屋交番新 築工事
16013	神山遺跡	河南町神山	確認	平成28年6月3日	平成28年6月3日	3	山田	大阪広域水道企業 団南部水道事業所	送水管布設工事(河南連絡 管・河南ルート)3工区事業
16014	久宝寺遺跡	八尾市久宝寺二丁目	立会	平成28年6月16日	平成28年6月16日	-	山田	住宅経営室 施設保全課	用地活用推進事業
16015	宮園遺跡	堺市中区宮園町	発掘	平成28年6月8日	平成29年3月10日	4614	宮野 市川 辻本	公共建築室 住宅設計課	府宮堺宮園住宅建替事業
16016	讃良郡条里遺跡	寝屋川市本町	立会	平成28年8月1日	平成28年8月1日	-	山田	教育庁 施設財務課	経年埋設管改修工事(府立寝 屋川高等学校)
16017	交野車塚古墳群	交野市寺南野	立会	平成28年8月8日	平成28年8月8日	-	山田	教育庁 施設財務課	経年埋設管改修工事(府立交 野高等学校)
16018	蔵重遺跡	松原市三宅東三丁目	立会	平成28年8月16日	平成28年8月16日	-	山田	教育庁 施設財務課	経年埋設管改修工事(府立松 原高等学校)
16019	七ノ坪遺跡	泉大津市北豊中町一 丁目	立会	平成28年8月22日	平成28年8月22日	-	山田	教育庁 施設財務課	経年埋設管改修工事(府立泉 大津高等学校)
16020	茨田安田遺跡	大阪市鶴見区安田一 丁目	立会	平成28年8月30日	平成28年8月30日	-	山田	教育庁 施設財務課	経年埋設管改修工事(府立茨 田高等学校)
16021	長原遺跡	大阪市平野区長吉川 辺三丁目	立会	平成28年9月6日	平成28年9月14日	-	小林 岡田	大阪広域水道企業 団東部水道事業所	送水管布設工事(藤井寺・長 吉バイパス送水管・藤井寺市 ほか)
16022	新金岡三丁遺跡	堺市北区新金岡三丁	立会	平成28年9月20日	平成28年9月21日	-	竹原 小林	公共建築室 住宅設計課	府宮金岡第三住宅耐震改修 工事
16023	宮園遺跡	堺市中区宮園町	確認	平成28年9月7日	平成28年9月7日	2	市川	公共建築室 住宅設計課	府宮堺宮園住宅建設事業
16024	西福井遺跡	茨木市西福井四丁目	発掘	平成28年11月1日	平成28年11月30日	54	西口 小林	交通道路室 道路整備課	一般府道余野茨木線歩道整 備工事
16025	府中遺跡	和泉市府中町	確認	平成28年9月27日	平成28年9月27日	12	岡田	交通道路室 道路整備課	都市計画道路大阪岸和田南 海線街路築造
16026	暗峠越奈良街道	東大阪市東豊浦町	立会	平成28年10月20日	平成28年10月20日	-	岡田	交通道路室 道路整備課	一般国道308号道路拡幅工 事
16027	遺跡外	貝塚市橋本	立会	平成28年11月28日	平成28年11月28日	-	山田	公共建築室 住宅設計課	府宮貝塚橋本第2住宅撤去 工事
16028	山坂遺跡	大阪市東住吉区山坂 三丁目	発掘	平成28年12月5日	平成28年12月13日	80	竹原	大阪府警察本部 施設課	大阪府東住吉警察署仮庁舎 建設工事
16029	宮町遺跡	富田林市宮町一丁目	発掘	平成29年1月6日	平成29年3月7日	600	山田	交通道路室 道路整備課	府道美原太子線道路改良事 業
16030	安松田遺跡隣接地	泉佐野市新安松	確認	平成28年8月1日	平成28年8月4日	116	竹原	文化財保護課	国庫補助事業(範囲確認)
16031	宰相山遺跡	大阪市天王寺区鍋差 町	確認	平成28年11月28日	平成28年12月11日	70	橋本 大阪市 教委	確認調査	-
16032	久宝寺遺跡	八尾市東久宝寺三丁 目	立会	平成28年12月6日	平成28年12月6日	-	岡田	交通道路室 道路環境課	一般府道大阪八尾線歩道照 明灯設置工事

表3 平成28年度調査箇所一覧(2)

調査番号	遺跡名	所在地	種別	調査開始	調査終了	調査面積 (㎡)	担当者	事業者	事業名
16033	府中遺跡	和泉市府中町五丁目	立会	平成28年12月9日	平成28年12月9日	-	岡田	交通道路室 道路整備課	都市計画道路大阪岸和田南 海線街路築造事業
16034	遺跡外	池田市伏尾町	試掘	平成28年12月22日	平成28年12月22日	4	岡田	交通道路室 道路整備課	一般府道豊能池田線道路改 良工事
16035	総持寺遺跡	茨木市総持寺五丁目	立会	平成28年12月19日	平成28年12月19日	-	竹原	大阪府警察本部 施設課	茨木警察署総持寺交番建替 工事
16036	竹内街道	羽曳野市飛鳥	立会	平成28年7月14日	平成28年7月14日	-	山田	河川室	一般河川(飛鳥川)改修工事
16037	神宮寺遺跡	八尾市神宮寺三丁目	立会	平成28年7月22日	平成28年7月25日	-	山田	教育庁 施設財務課	終年埋設管改修工事(府立八 尾翠翔高等学校)
16038	遺跡外	大阪市中央区島之内 一丁目	立会	平成29年1月10日	平成29年1月10日	-	竹原	大阪府警察本部 施設課	南警察署別館建替工事
16039	遺跡外	松原市大堀四丁目	試掘	平成29年1月19日	平成29年1月19日	16	岡田	交通道路室 道路環境課	一般府道大阪羽曳野線 道路休憩施設整備事業
16040	宮園遺跡	堺市中区宮園町	立会	平成29年1月25日	平成29年1月25日	-	辻本	公共建築室 施設設計課	府宮堺宮園住宅建設事業(受 住宅設計)
16041	出雲井古墳群	東大阪市出雲井町	立会	平成29年2月1日	平成29年3月1日	-	岡田 市川	農政室 推進課	ウメ輪紋ウイルス緊急防除 対策事業
16042	西福井遺跡	茨木市東福井二丁目	立会	平成29年2月13日	平成29年2月13日	-	竹原	大阪府警察本部 施設課	茨木警察署福井交番新築工 事
16043	長原遺跡	大阪市平野区長吉川 辺三丁目	立会	平成29年2月15日	平成29年2月17日	-	岡田 市川	大阪広域水道企業 団東部水道事業所	送水管布設工事(藤井寺長吉 バイパス送水管・藤井寺市ほ か)
16044	住吉宮の前遺跡	池田市空港二丁目	立会	平成28年11月15日	平成28年11月21日	-	岡本	近畿財務局	大阪空港旧職員宅用地内 地下埋設物調査
16045	川北遺跡	藤井寺市川北一丁目	立会	平成28年11月30日	平成28年11月30日	-	岡本	大阪広域水道企業 団東部水道事業所	送水管布設工事(藤井寺・長 吉バイパス送水管)
16046	吹田操車場遺跡	吹田市芝田町	立会	平成28年12月2日	平成28年12月7日	-	岡本	国立循環器病研究 センター	国立循環器病研究センター 建替に伴う埋設管布設工事
16047	中条小学校遺跡	茨木市新中条町	立会	平成29年2月20日	平成29年2月20日	-	岡本 原田	J R西日本	J R西日本茨木寮解体工事
16048	郡川遺跡	八尾市垣内一丁目	立会	平成29年2月14日	平成29年2月14日	-	岡田	大阪広域水道企業 団東部水道事業所	地下埋設物調査工事
16049	遺跡外	南河内郡太子町山田	立会	平成29年3月21日	平成29年3月21日	-	山田	交通道路室 道路環境課	一般国道166号歩道設置工 事
16050	竹内街道	羽曳野市飛鳥	立会	平成29年1月31日	平成29年1月31日	-	山田	河川室	一般河川(飛鳥川)改修工事
16051	深井畑山窯跡群	堺市中区深井畑山町	立会	平成28年11月28日	平成28年11月28日	-	竹原	大阪広域水道企業 団南部水道事業所	送水管布設工事(バイパス・ 堺市深井畑山町~堺市田園) に伴う擁壁工事
16052	豊浦谷古墳群	東大阪市東豊浦町	確認	平成29年3月1日	平成29年3月24日	35	岡田 市川 東大阪 市教委	都市計画室 公園課	府宮牧岡公園長持石休憩所 改修工事

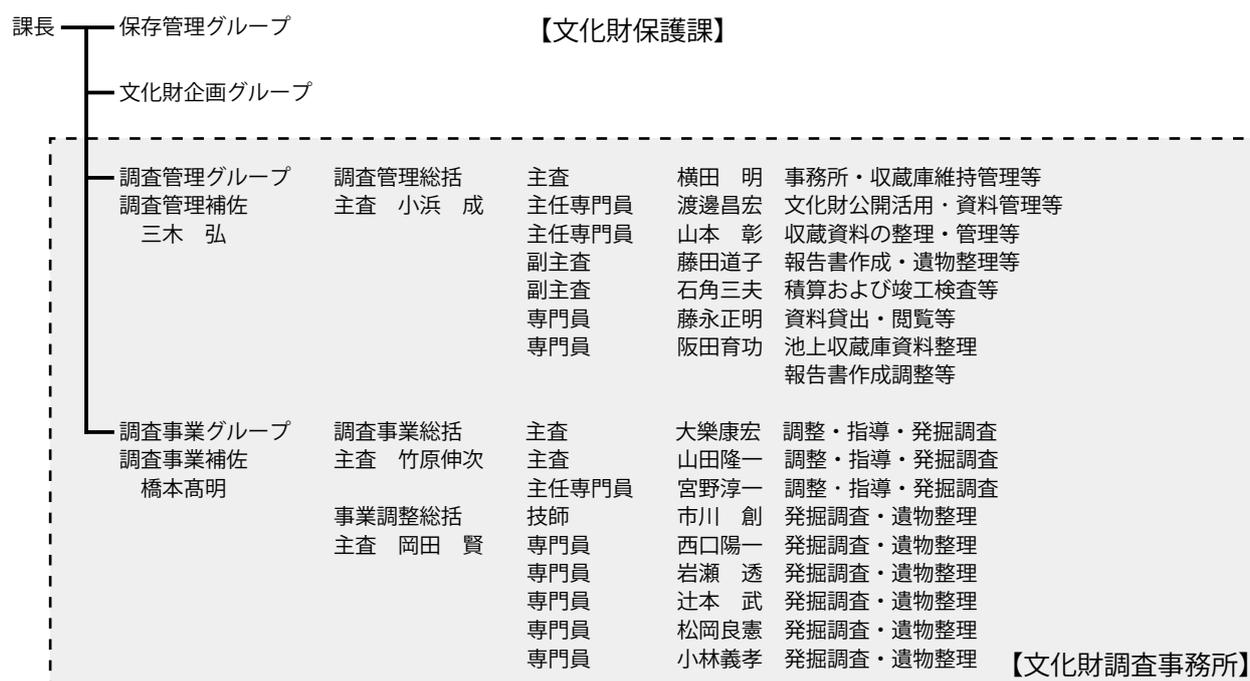


図1 平成28年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図

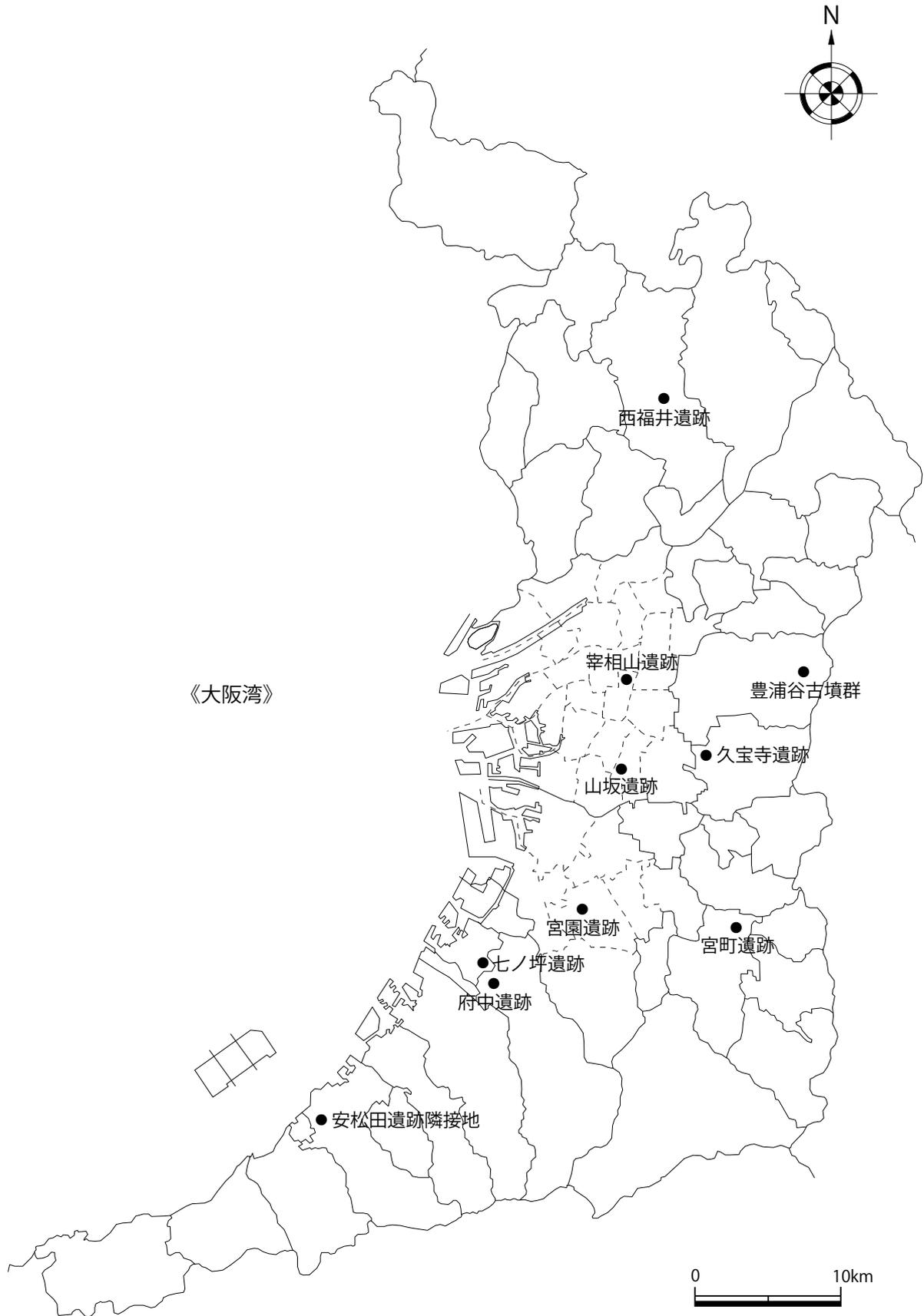


図2 主要調査位置図

府中遺跡（16001）

- (1) 和泉市府中町五丁目
- (2) 都市計画道路大阪岸和田南海線街路築造事業
- (3) 松岡良憲・岩瀬 透・岡田 賢

はじめに

府中遺跡は、大阪府和泉市府中町に所在し、東西約1km、南北約1.2kmの規模を有する、その範囲内に和泉国府跡や和泉寺跡推定地を含む遺跡である。都市計画道路大阪岸和田南海線の街路築造事業に伴い、平成17年度に試掘調査、平成21年度から継続的に発掘調査を実施している。

平成28年度は、平成27年度から継続しているA～C区、およびD・E区、F・G区の3地点で調査を行った。調査面積は合計4550㎡である。

A・B・C区

A～C区は、全長約100m、幅約20mの道路建設範囲を南北に2分割したものと西側の工事用道路部分である。A区は平成27年度に調査完了しており、平成28年度はB・C区の調査を実施した。C北区はA区から続く近世以降の耕作地であり、その造成により基盤層が相当程度削平されていたことにより、中世以前の遺構は希薄であった。

B区およびC南区は、旧耕作土とその床土の下位で中世に属する掘立柱建物跡、耕作に伴う溝、粘土を採掘したと考えられる土坑などを検出した。土坑は、基盤層である砂礫層がむき出しになるA区北半には存在せず、砂礫層が大きく窪み、その上部に粘土層が堆積するA区の南半部からB区およびC南区の中央部にかけて確認されるという分布上の特徴がある。B区およびC南区の中央から調査区南端にかけては、基盤層である砂礫層が南へ向かって大きく落ち込んでいるが、その上部の堆積層は粘土層ではなく、砂礫や砂質土を主体とする堆積物であった。

この落ち込みは、東南東から西北西方向の流路痕

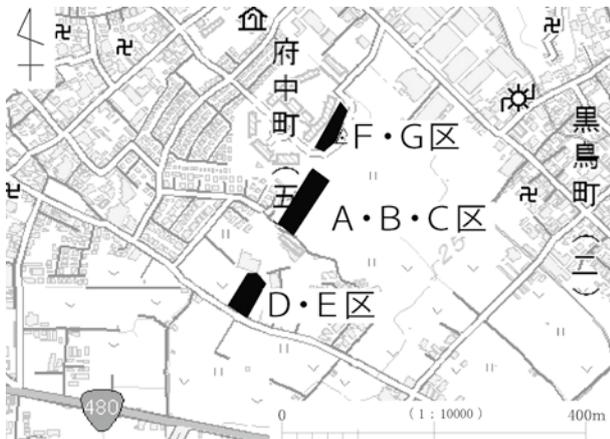


図3 府中遺跡調査区位置図

跡である（流路232）。下半部は古墳時代前期後半～後期の須恵器、土師器を含む暗褐色シルトが堆積しており、上半部は奈良～平安時代にかけての土師器、須恵器、瓦などを含む砂質シルトが数層堆積していた。下半部は滞水性の堆積物であり、上半部は概ね水平堆積で、層相からは人為的な整地層の可能性はある。古代以降において旧流路の凹部を均すような土地利用がなされていたといえる。

また流路の北肩部には、古墳時代前期後半に属する竪穴建物が検出された。北東隅に焼土が検出されている。また柱穴は検出されていない。埋土からは高坏などの土師器、平行タタキ目をもつ韓式系土器（甕）が出土している。この出土遺物は流路232の最下層から出土している土師器と時期を同じくするものとみられる。

D・E区

D・E区は、A～C区の南約100mに位置し、平成21年度調査区と市道を挟んで北側に位置する。全長約50m、幅約20mの調査区を東西に2分割し東をD区、西をE区として実施した。

遺構面は2面確認された。第1面は中世の畦畔、溝等、耕作に関連する遺構であり、出土遺物より中世前期頃（12～13世紀頃）の遺構面と考えられる。本調査区でもっとも特徴的なのは、第2面の調査成果である。基盤層である砂礫層の上面で、平安時代に属する多数の溝、土坑、柱穴等が検出された。柱穴のあり方から、掘立柱建物は5棟が復元可能で、建物の軸を東西方向にとるものと、やや北西～南東方向にとるものの2群に分けることができ、東西軸をとるものの方が時期的には古いと考えられる。前



図4 B区南半部竪穴建物検出状況（北から）

者に属する建物1は総柱の高床建物の可能性があり、建物2は2間×3間の平地建物で、柱穴(ピット)に近接して黒色土器B類碗が出土している。後者に属する建物3および4は2間×3間の平地建物、建物5は3間×4間の高床建物である。

土坑は径が概ね40～80cm程度の円形を主体とし黒色土器A類、B類碗、土師器皿、須恵器、瓦片等が出土している。特徴的なものを挙げれば、土坑496は、平面形が隅丸方形を呈し、比較的多く土器が出土している。特に埋土の上部で黒色土器B類の碗が、中位からは黒色土器A類の碗が共に完形で出土した。また土坑433は、径90cm、深さ10cm程度の皿型の土坑であるが、底面に土師器皿を5枚並べられていた。この他には柵列も検出されている。この平安時代の第2面は、砂礫層を基盤層として検出されたが、この砂礫層は、府中遺跡の南側を流れる槇尾川に由来する氾濫堆積物とみられる。現在では顕著に認められないが、現河道とは別に流れるいくつかの支流が、B区およびC区で検出された先述の流路232をほぼ北限として、現河道までの間に、氾濫のたびに堆積させたものと考えられる。D・E区においては、この砂礫層中から弥生時代後期後半から庄内式期にかけての土器片が含まれることか



図5 E区第2面全景(南から)



図6 D・E区土坑433遺物出土状況

ら、この砂礫層の形成時期は当該期と考えられる。

F・G区

F・G区は、A～C区の北約50mに位置しており、全長約70m、幅約20mで、南北に2分割した南をF区、北をG区とした。

遺構面は基盤層である粘土層の上面で検出された1面のみである。この遺構面では溝、土坑、落ち込み等が検出されている。遺物量はかなり少ないが、これらの所属時期により、本遺構面の時期は中世後半(14～15世紀)を中心とした時期と考えられる。土坑はA区やB区で検出された粘土採掘のための土坑と形態、埋土が類似し、本調査区における土坑も同様の性格をもっていたものと考えられる。A～C区の北半部分で検出された遺構と一連の遺構面であるといえよう。

まとめ

本年度の調査では、各調査区においてそれぞれ特徴的な成果を得ることができた。A～C区の北半部分からF・G区にかけては、中世後半に属する遺構群、A～C区の南半部分については、古墳時代前期後半頃の流路と竪穴建物、D・E区では平安時代の建物群というように、各地点において検出遺構とその時代は多岐にわたっており、府中遺跡の時代的多様性を示すこととなった。次年度以降についても、引き続き道路事業に伴う調査が継続されるため、それにより府中遺跡の各時代の様相が一層明確になるものといえよう。



図7 G区全景(南から)

久宝寺遺跡（16002）

- (1) 八尾市西久宝寺
- (2) 久宝寺緑地整備事業
- (3) 岡田 賢・市川 創

はじめに

久宝寺遺跡は、河川の影響を頻繁に受ける久宝寺沖積地に立地し、東西 1.6km、南北 1.6km で、およそ 256ha の範囲に広がっている。現在、久宝寺緑地において整備事業が計画されており、計画地における地層の堆積状況および遺構・遺物の分布状況を確認するために確認調査を実施した（図 8）。調査期間は平成 28 年 5 月 23 日～6 月 6 日である。

調査成果

層序については、現地表下約 3m までの堆積物を現代盛土である第 0 層から第 10 層まで区分した。第 1～3・5・6 層は作土であり、砂質シルトを基調として、氾濫堆積物である第 4 層が挟在する。このうち第 3 層の下面では、SD401・403 を検出した。両溝は並行して延び、耕作に関わる遺構と考えられる。第 3 層からは土師器・須恵器など古代以前の遺物が相対的に多く出土したほか、堆積時期を示す資料として、肥前陶器・肥前磁器・丹波焼・土師器焙烙などが出土している。

第 4 層は氾濫堆積物であり、黄灰色細粒砂質シルトからなる。層厚は 20cm 以下である。本層上面で SK402 を検出した。本層からは時期不詳ながら土師器・須恵器が出土した。

第 7 層は河成層であり、層厚は約 60cm ある。下部は黄褐色砂礫からなり、上方へと細粒化する。砂礫

にはトラフ型ラミナが認められ、本層を形成した古流向がおおよそ南北方向であったことがわかる。

第 8 層は滞水性の堆積物で、植物性の有機分に富み、オリブ黒色細粒～中粒砂質シルトからなる。層厚は 10cm ほどで、土師器片が出土している。

第 9 層は河成層で、分級の悪い黄灰色砂礫からなる。層厚は 75cm ほどである。

第 10 層は滞水性堆積物で、層厚は 5cm 以上ある。植物質に富むオリブ黒色細粒砂質シルトからなる。

まとめ

今回の調査地では、第 7 層以下は厚い河成層が堆積し、調査地は河川中に位置すると考えられる。1961 年撮影の航空写真および周辺における調査成果を参照すると、調査地北方で実施された近畿道建設に伴う調査（大阪府教育委員会 1987『久宝寺北（その 1～3）』）では、河川の流路変遷により形成された沖積リッジに次代の遺構が形成されるようすが把握されている。今回の調査区の南西で実施された平成 16 年度調査（大阪府教育委員会 2007「久宝寺調査区（調査番号 06042）」『加美・久宝寺遺跡発掘調査概要』）では、第 7 層以下に対応する河成層が確認されず、庄内期の遺構が高い標高で検出されている。

これらの調査成果と航空写真から得られる情報を考え合わせると、調査地一帯には南東→北西方向の流路が各時代に存在し、調査区よりも南西に形成された沖積リッジは弥生時代～古墳時代にかけてヒトの生活の場となっている。今回の調査区よりも南西では、古墳時代以前の遺構・遺物が確認される可能性が高いといえよう。



図 8 久宝寺遺跡調査地位置図

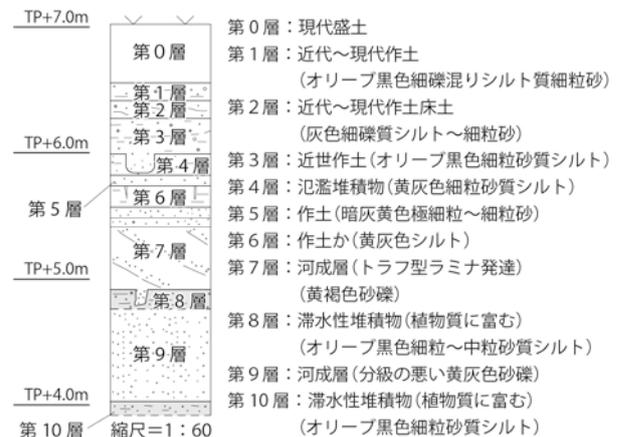


図 9 模式柱状図

宮園遺跡（16015）

- (1) 堺市中区宮園町
- (2) 府営堺宮園住宅建替事業
- (3) 市川 創・辻本 武・宮野淳一

はじめに

宮園遺跡は、平成 22 年に府営住宅の建替え計画を受けて実施した試掘調査により新たに発見した遺跡である。遺跡範囲は府営住宅の敷地、およそ 21ha に広がっている（調査番号 10061「文化財調査事務所年報 15」2011 を参照）。

平成 27 年、第 1 期建替え事業が着手され、既存建物 4 棟が解体撤去された。その跡地に建築される 2 棟の高層棟と道路及び地下雨水貯留槽を発掘調査の対象とした。調査は平成 28 年 6 月に開始し、平成 29 年 3 月に終了した。

遺跡の環境

堺市域の地形は、南東から北西に下る泉北丘陵と信太山丘陵とその上部に広く形成された段丘地形、及び海岸沿いの低地や埋立地で構成される。段丘上は幾多の流路によって開析され、大小の支谷が存在する。点在する溜池は谷を堰き止めたものが多い。

宮園遺跡は北西に緩やかに下る下位段丘面に立地し、付近には北西～北北西に伸びる谷がある。しかし、造成により現在は広い平坦面が広がっているように見える。府営住宅の敷地は昭和 30 年代まで耕作地であり、厚く盛土をして平坦地としている。

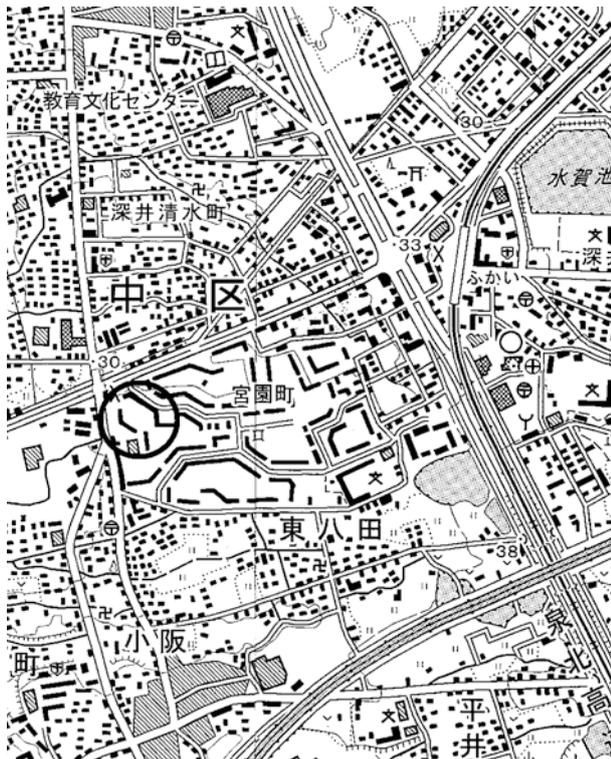


図 10 宮園遺跡調査地点位置図（○印）

調査成果

今年度の調査は住宅敷地の西端に位置し、北側の住棟と雨水貯留槽を合わせて第 1 調査区 (2,172 m²)、南側の住棟を第 2 調査区 (1,090m²)、南端の道路部分を第 3 調査区 (1,352m²) として実施した。調査の総面積は 4,614m²である。

基本的な土層堆積は、盛土・1 層（現代耕作土）・2 層（耕作土ほか）・3 層（整地層）・4 層（自然河川内堆積層）・5 層（段丘層）となっており、遺構は 1 層下面で近世の遺構、第 5 層上面で中世およびそれ以前の遺構を検出した。

第 1 調査区

第 1 調査区は東西に 2 分割して調査を進めた。盛土と 1 層がおよそ 1.5 m の厚さで堆積していた。遺構は主に第 5 層上面で検出した。

図 12 は土坑群で、不整形円形や不定形の大型の土坑が重複して多数存在する。第 5 層が粘土質の部分に限定して掘られおり、また深さも一定し、掘削後すぐに人為的に埋め戻されていることから粘土採掘坑と考えている。いくつかの土坑の埋土には羽釜や播鉢の大型破片や瓦器など中世土器が含まれていた。全体には 14～15 世紀の遺物が多い。



図 11 調査区配置図

粘土採掘坑は第2調査区及び第3調査区でも検出した。堺市教育委員会による周辺遺跡の調査でも検出されており、中世村落の生業の一つとして焼物作りが行われていた可能性もある。

また、第1調査区東部から第1調査区中央部にかけて自然河川を検出した。河川は蛇行しながら北西に向かっている。これは本地域一帯の地形傾斜に一致する。自然河川は最下層に葉理の発達する砂礫層、上位に黒色粘土層が堆積している。自然河川が埋積した時期については理化学的な年代測定を実施する予定である。なお黒色粘土層では完形に近い須恵器2点（6世紀後半、陶邑Ⅱ型式4段階相当）を検出したが、他に遺物はほとんど含んでいない。

第2調査区

第2調査区は北側が旧住棟で攪乱されていたが、中央から南側にかけて中世の土坑群を検出した。第1調査区の土坑と同様に大型のものがあるほか、径70cm～80cmの規模の土坑もある。埋土は埋め戻されたものだが、土質に違いもあり、すべて粘土採掘を目的としたものかはこれから検討を進めたい。

図14は土坑内の土器検出状況である。手前の瓦質羽釜は、体部中位以下は欠けている。奥は播鉢で、全体の3分の1ほどの遺存だが、周辺の土坑にも破片があり、ほぼ完形に復元できた。

第3調査区

もっとも南に位置し、北西から東に延びる細長い調査区である。中央部を下水管が横断しているため第3調査区は西の①と東の②に分かれている。一部攪乱を受けた部分を除き、第1・2調査区と同様に中世の遺構が全体に分布していた。

しかし、第3調査区で特記するものとして、奈良時代の遺構をあげることができる。②の東端から30mほどの位置で東に落ちる落ち込みの肩があり、そこから東に複数の土坑が点在する。この落ち込みは東半で下層に黒色粘土層及び砂礫層を検出したことから、自然河川の一部と思われる。最上層には瓦器や瓦質土器など中世の遺物が含まれるため、肩部に近い部分の土坑は中世遺構の可能性もある。しかし、幾つかの土坑からは奈良時代の遺物が出土している。完存の甕を検出した土坑もあった。その性格は今のところ不明である。

まとめ

宮園遺跡の発掘調査は今回が初めてであった。中世遺構の存在は、試掘調査や周辺遺跡の成果から予想していた。しかし、奈良時代の遺構や古墳時代の遺物など新たな発見もあった。調査は今後も続く予定であり、中世集落の実態やさらに遡る時代の様相を明らかにしていきたい。

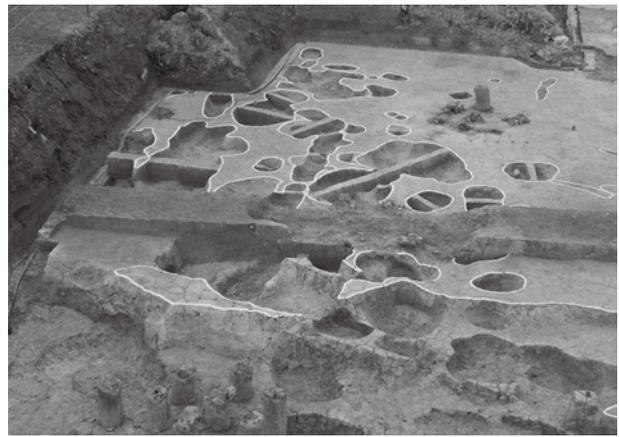


図12 第1調査区土坑群（南から）



図13 第2調査区全景（西から）



図14 第2調査区 土坑内の中世土器（南西から）



図15 第3調査区 土坑内の奈良時代甕（北から）

七ノ坪遺跡（16019）

(1) 泉大津市北豊中町1-1-1

(2) 経年埋設管改修工事（大阪府立泉大津高等学校）

(3) 山田隆一

はじめに

七ノ坪遺跡では、過去の調査で弥生時代から古墳時代の集落、墳墓、水田が確認されている（図19）。今回、ガス管老朽化に伴い実施された改修工事に立会った（図17）。

調査結果

現地表下60cmまでが学校築造時の盛土、その下30cmが硬く締まる黄灰色シルト質土、10cmが灰色シルト質土と無遺物層が続く。工事掘削は現地表下80cmまでであるが、平面約20cm四方で更に深さ30cm程度の下層確認を行ったところ、現地表下1mで黒灰色弱粘質シルトを確認した。本層は表面に鉄分沈着が確認でき、約20点の土師器片と若干の自然木片が出土した。

出土遺物（図18） 1は手焙形土器の覆部である。覆端部の上下に粘土を貼り付けて拡張させ、平坦面を形成する。平坦面には突帯二条を貼り、その間に小型の竹管円形浮文を施す。覆部内面はハケ目、外面には雑な綾杉文二段を施す。2は底部である。外面へラミガキ、内面工具ナデである。底径約3.0cm。3は甕の底部である。伝統的な太筋の叩きで成形する。底径約4.5cm。4は高坏の脚裾部である。四方スカシ孔を穿つ。外面太筋へラミガキ、内面ハケ目である。1の手焙形土器は、庄内期後半に位置付けられ、底部2・3も同時期と考えて矛盾はない。

まとめ

今回の立会箇所は、過去の調査結果（図19）における自然流路でありその最終的な堆積の可能性が強い。今回の出土遺物からこの自然流路は、庄内期後半には機能を完全に停止したことがわかる。



図17 作業風景

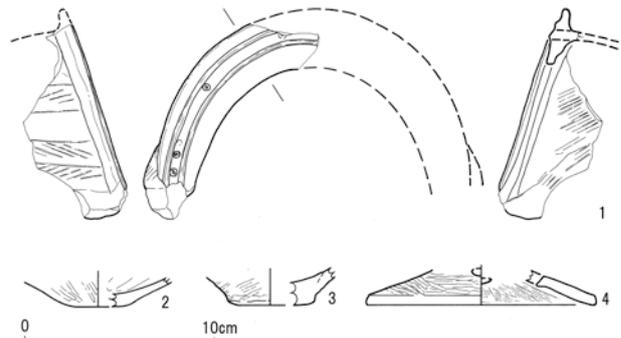


図18 出土遺物実測図

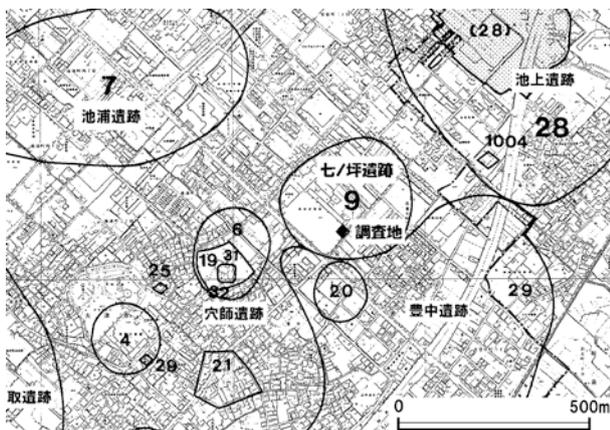


図16 七ノ坪遺跡調査地位置図

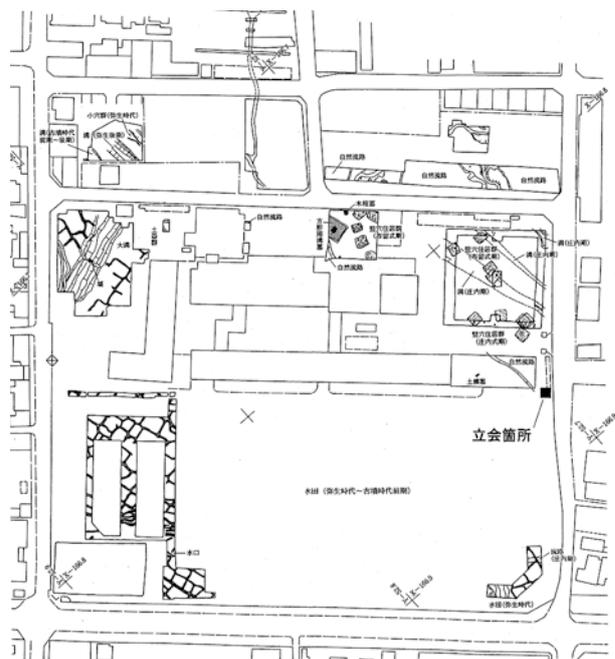


図19 弥生・古墳時代前期の遺構分布図

西福井遺跡（16024）

- (1) 茨木市西福井四丁目
- (2) 一般府道余野茨木線歩道整備工事
- (3) 西口陽一・小林義孝

調査の経過

当該工事に伴う発掘調査は平成27年度に引き続いて2年目にあたる。今年度は新屋坐天照御魂神社参道の北側を対象とした。歩道の擁壁を設置する工事によって埋蔵文化財が損壊するため、その部分について調査を実施した。幅1.8m、長さ30m、面積は54㎡である。

検出された遺構

中世の二つの遺構面を検出した。第1面は中世後期の面で、溝、井戸、一列に並ぶ小ピット群などを検出した。

第2面は中世の遺構と縄文時代の遺構が同時に検出された。土坑を多く検出し、長さ0.5～1.0m、幅が0.5m前後を測るものが多い。中世のものは埋土が灰黄褐色土であるのに対して、縄文時代のものは黒色土である。また調査区の北部で2条の河川を検出した。幅1m前後を測り、基本的に北西から南東方向に流れる。埋土中から縄文土器、弥生土器、古墳時代前期の土師器などが出土した。

人骨を出土した縄文時代の土坑（土坑010）

第2面で検出された。長さ約1.3m、幅約0.75m、深さ約0.24mを測る隅丸長方形である。埋土は黒色土である。埋土中には焼けて白くなった骨片が多く含まれおり、乱雑に投棄されたような状態で検出された。少量の縄文土器片や石器片が出土し、縁帯文土器片が確認できたことから遺構の時期は縄文時代後期もしくはそれ以降のもと推測される。

出土した人骨は、全身の部位がランダムな状態で出土し、同じ部位の骨片が複数存在することから、5体前後の人骨の一部であることがおおそ確認できた（大阪市立大学大学院医学研究科 安部みき子氏のご教示による）。また抜歯の痕跡をもつ下顎骨もみられることから、縄文土器が示す年代と整合する。人骨は次年度実施する遺物整理作業のなかで詳細な分析を依頼する予定である。

出土した遺物

コンテナ5箱分の遺物が出土した。土器片、石器片などが2箱、土坑010からの人骨が3箱である。土器類はすべて破片であるが、縄文・弥生・古墳・奈良・平安・鎌倉時代に帰属するものである。

まとめ

小規模な調査に関わらず多様な成果をあげること

ができた。

土坑010は近隣に縄文時代の集落の存在を予想させる。また多くの時代にまたがる遺物も西福井遺跡の多様な性格を示すものである。



図20 西福井遺跡調査地位置図



図21 調査区全景（南から）



図22 土坑010 人骨出土状況（南から）

山坂遺跡（16028）

- (1) 大阪市東住吉区山坂三丁目
- (2) 大阪府東住吉警察署仮庁舎建設工事
- (3) 竹原伸次

大阪府警察本部は、東住吉警察署建替えに伴い、その仮庁舎を、東住吉区山坂三丁目の JR 阪和線の旧軌道敷内に建設することを計画した。

建設予定地は一部山坂遺跡に当たるため、文化財保護課は、大阪府警察本部と協議し、建設予定地内の確認調査を実施することとなった。

調査地は、JR 阪和線の南田辺駅と鶴ヶ丘駅のほぼ中間部にあたり、高架化される前の旧軌道敷に当たる。大正 14 年発行の 25000 分の 1 地形図では、長池と呼ばれるため池の東側の堤となっている。長池は阪和線建設の際に埋められ、現在では公園となっている。

2 m × 20 m の調査区を 2 ケ所設定し、調査を実施した。

調査区 1 基本層序は、第 1 層アスファルト、第 2 層から 4 層阪和線建設時の盛土、第 5 層暗緑灰色砂混じり粘質土、第 6 層黒灰色粘土、第 7 層黄褐色粗砂、第 8 層青灰色粘質土と黒灰色粘質土のブロック土である。阪和線建設時の盛土を除去した後、上面



図 23 山坂遺跡調査地位置図



図 24 調査区位置図

を精査すると調査区東側は第 7 層、西側は第 5 層を確認した。第 5 層は西側に向かって傾斜している。このことから、第 7 層は長池の堤、第 5 層は長池の堆積物であると考えられる。

調査区 2 基本層序は、第 1 層アスファルト、第 2 層から 4 層阪和線建設時の盛土、第 5 層暗灰色粘質土、第 6 層暗緑灰色粘土、第 7 層青灰色粘質土、第 8 層黄褐色粗砂である。阪和線建設時の盛土を除去した後、上面を精査すると調査区東側は第 8 層、西側は第 5 層を確認した。第 5 層は西側に向かって傾斜しており、第 5 層以下第 6 層から第 7 層が堆積している。このことから、調査区 1 同様第 8 層は長池の堤、第 5 層以下は長池の堆積物であると考えられる。

最終的に仮庁舎の基礎が及ぶ深さまで掘り下げたが、両調査区とも遺構・遺物は確認されなかった。



図 25 調査区 1 全景（南から）



図 26 調査区 2 全景（南から）

宮町遺跡（16029）

- (1) 富田林市宮町一丁目
- (2) 府道美原太子線道路改良事業
- (3) 山田隆一

はじめに

宮町遺跡は、古墳時代から中世に存続する集落遺跡である。平成15年度に実施した試掘調査で発見された。現地は新設道路が国道170号線に取付く部分で、東は近鉄長野線に挟まれた箇所である。調査地は長さ72m、幅15mであり、今年度はその南半の幅7mを調査した。なお以下の遺構の多くは次年度調査区に延びており、遺構の時期は暫定的なものとし、全体の遺物整理によって確定したい。

調査結果

遺構の分布(図28) 遺構は地山直上で確認でき、調査区中央やや西で確認した溝001を挟んで東側に集中する。西側は地山が徐々に低くなり、風倒木と考えられる不定形な土坑が確認できるのみである。また調査区より東側は、谷地形を利用した粟ヶ池で地形は低くなる。宮町遺跡は、南北方向にのびる高まり上に形成された集落であることがわかる。

調査区東側の遺構(図29) 手前は溝001でい



図27 宮町遺跡調査地位置図



図28 調査区全景(上が北)

く分湾曲する。幅1.8m、深さ0.3m程度、手前は浅くテラス状を呈する。時期は不明。落込み031は浅く不定形である。時期は6世紀後半。井戸055は直径1.1m、深さ2.1m以上である。掘削し得た1.1mまでは人為の埋立土である。時期は不明。その他の遺構として掘立柱建物3棟の他、大型の土坑4基、柵列らしき柱穴列1条などがある。

掘立柱建物2(図30) 総柱の掘立柱建物である。3棟の内、最大規模で建替えがある。規模は東西約3.0m、南北約3.5mで、南は調査区外にのびる可能性がある。柱掘方は60~70cmの方形が一般的である。時期は古墳時代後期。やや西に振る幅狭く浅い溝群は、耕作に伴うと考えられ、時期は中世である。地山面検出遺構では最も新しいものである。なお手前右隅は掘立柱建物1の一部である。規模は東西約3.0m、北は調査区外にのびる。

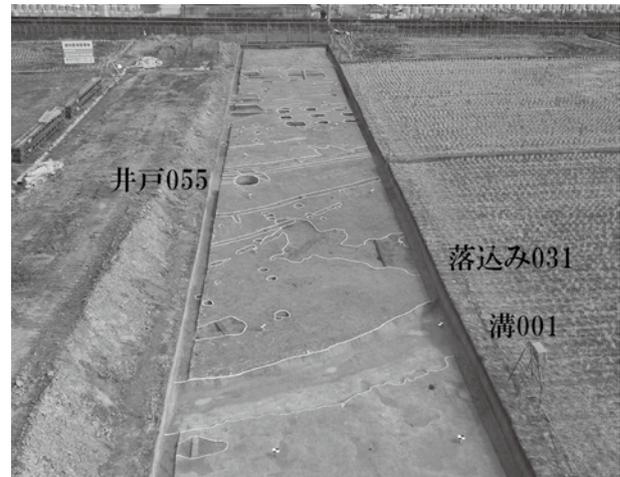


図29 調査区東半(西から)

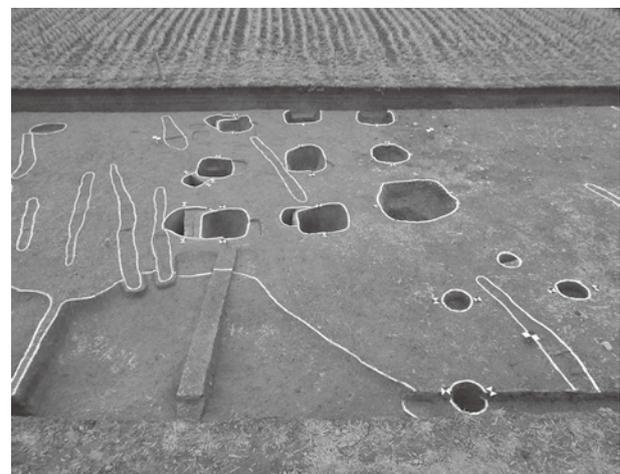


図30 掘立柱建物2(北から)

安松田遺跡隣接地（16030）

- (1) 泉佐野市新安松三丁目
- (2) 国庫補助事業（範囲確認）
- (3) 竹原伸次

はじめに

安松田遺跡は、泉佐野市東羽倉崎町に所在し、府営住宅の建替に伴い、平成15、18、21年度に発掘調査を実施している。調査の結果、多くの土坑を検出している。土坑の中から瓦が出土しているが、この瓦は、その大きさと釘穴の位置などの特徴から、重源を大勧進として行われた東大寺再建の際に使用された瓦と同じものと考えられている。

また、調査地の南東端から焼土、炭、焼けた瓦窯の壁体が出土したことから、この近辺に瓦窯の存在が予想されたが、安松田遺跡の調査では窯跡を検出



図31 安松田遺跡隣接地調査地位置図

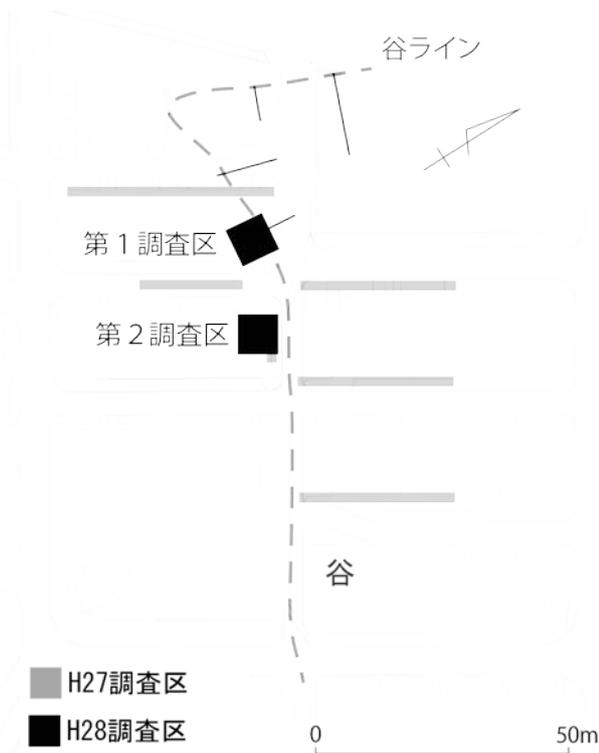


図32 調査区位置図

することはできなかった。

平成26年度には、安松田遺跡の道路を挟んで南東側の府営住宅の撤去工事の際に立会調査を実施した。この結果、北側に落ちる谷地形を確認することができたが、窯跡等を発見することはできなかった。

このため府教育委員会では、平成27年度に窯跡等の発見を目指し、府住宅まちづくり部の協力のもと、国庫補助金を得て用地内の試掘調査を実施した。

用地内に5カ所の調査区を設定し調査を実施し、谷地形の位置を明確にするとともに、第2調査区-1から粘土採掘坑を、第5調査区から一辺約0.6mのピットを2基並んだ状態で検出した。遺物は出土しなかったため、時期は不明である。また、レーダー探査を実施したが、窯跡を確認することができなかった。

平成28年度は、前年度調査した第5調査区のピットの広がり、第2調査区で検出した粘土採掘坑の広がり、谷の落ちを確認するために、国庫補助金を得て2ヶ所の調査区を設定し調査を実施した。

第1調査区

平成27年度の第1調査区、第2調査区間に設定した。谷の落ち及び粘土採掘坑の検出を目的として設定した調査区である。

基本層序は、府営住宅建設時の盛土が約1.5mあり、以下旧耕作土約0.2m、床土0.2m、黄灰色シルト(地山)となる。遺物包含層は確認できなかった。

地山面上から、土坑4基、溝1条、谷地形を検出した。土坑1は、長径約1.6m、短径約1mの楕円形を呈する。深さは約0.2mで、埋土は黒灰色シルトである。土坑2は、土坑1に切られており、短径約0.6m、長径約0.7m以上の楕円形を呈するものと思われる。深さは約0.1mで、埋土は暗茶灰色シルトである。土坑3は、長径約1.4m、短径約1mの楕円形を呈する。深さは約0.4mで、埋土は黄灰色シルト、黒灰色シルト、灰色シルトのブロック土である。土坑4は、そのほとんどが、調査区外であり形状は不明である。深さは約0.1mであり、埋土は土坑3と同じである。溝5は、土坑3及び谷地形切られている。残存長約1.5m、幅0.7mである。深さは約0.2mで、埋土は暗茶灰色シルトである。遺構からは遺物は出土しなかった。

第2調査区

平成 27 年度の第 5 調査区で検出されたピットの広がりを確認するために設定した調査区である。

基本層序は、府営住宅建設時の盛土が約 1.5 m あり、以下旧耕作土約 0.2 m、床土 0.2 m、黄灰色シルト(地山)となる。遺物包含層は確認できなかった。

地山面上からピット 2 基、土坑 2 基を検出した。ピット 1、2 は、平成 27 年度の調査で確認していた遺構である。ピット 1 は攪乱に切られているが、一辺約 0.8 m の隅丸方形を呈すると思われる。深さは約 0.2 m で、埋土は黒灰色シルトである。ピット 2 は、一辺約 0.7 m の隅丸方形を呈する。深さは約 0.3 m で、埋土は黒灰色シルト、黄灰色シルト、黒灰色シルトと黄灰色シルトのブロック土の 3 層に分かれる。土坑 3 は、長径約 0.6 m、短径約 0.6 m の楕円形を呈する。深さは約 0.2 m で、埋土は黒灰色

シルトのブロック土である。土坑 4 からは、弥生時代後期の甕の口縁部及び底部が出土した。

まとめ

今回の調査では、谷の落ちを再確認するとともに、これまで安松田遺跡では確認できていなかった弥生時代の遺構を検出することができ、多大な成果を上げることができた。

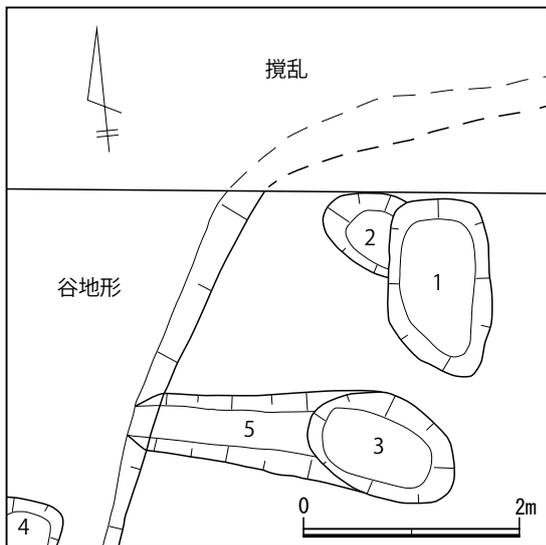


図 33 第 1 調査区平面図

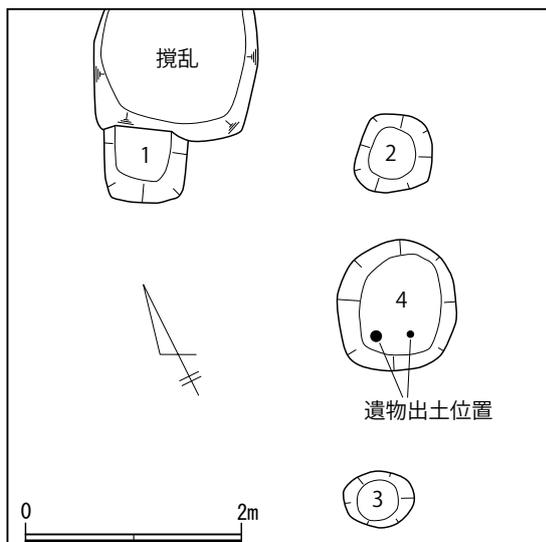


図 34 第 2 調査区平面図

シルトと黄灰色シルトのブロック土である。土坑 4 は、長径約 1.2m、短径約 1.1 m の楕円形を呈する。深さは約 0.3 m で、埋土は黒灰色シルトと黄灰色シ



図 35 第 1 調査区全景 (南から)



図 36 第 2 調査区全景 (南西から)



図 37 第 2 調査区土坑 4 内遺物出土状況 (北西から)

宰相山遺跡（16031）

- (1) 大阪市天王寺区餌差町8
- (2) 確認調査
- (3) 橋本高明・大阪市教育委員会

はじめに

調査は、敷地内に東西方向（幅2m、延長17m）、南北方向（幅2m、延長15m）の調査用トレンチを「十文字」に設定し、重機と人力によって掘削した。基本層序と微地形

本調査区の基本層序は、アスファルトを除去すると、1. 現代層（プラスチックを含む）が、20～60cmの厚みで堆積し、その下層には18世紀以降の陶磁器や瓦、炭を含む2. 暗灰色土層が見られる。6. 暗褐色砂質土層は地山（7. 黄色粘土層）の直上に見られるもので、約40～50cmの厚みで調査区の全体に堆積していたものと思われるが、所々を18世紀遺構の遺物を含む大型の土坑によって削られ、攪乱されている。無遺物層である。7. 黄色粘土層（地山）直上の高さは、南北トレンチの北端で、T.P. + 17.1 m、南端でT.P. + 17.1 m、東西トレンチの東端でT.P. + 17.1 m、西端でT.P. + 17.2 mとほぼ変わらず、平坦な地形であることを示している。ただし、今回の調査区内においては、地山直上に遺物包含層（旧表土）が確認できなかったことから、地山面も削られていることが想定できる。

検出した遺構

今回の調査で検出した遺構は、掘立柱建物の一部と考えられる柱穴やピット、東西方向の溝である。トレンチによる確認調査のため、全容は不明であるが、4個の柱穴が南北方向に1.8mの間隔で1列に並んでおり、建物の一部と考えられる。柱穴は掘削していないが、隅丸方形の平面プランを呈している。柱穴に切り合い関係もあることから、複数の建物の存在も想定できる。埋土は、いずれも淡灰色系の砂質土である。溝は、南北トレンチで検出したもので、東西方向を示し、埋土の堆積状況から2～3回の掘り直しが認められる。溝の幅は2m程度、深さは20～25cm残存している。埋土は暗茶灰色系の砂質土である。遺物は土師器の甕が1点出土した。さらに溝の北側で、溝に切られた遺構から、7世紀頃の須恵器の杯身が出土した。この遺構の埋土は他の柱穴やピットと同様の淡灰色砂質土である。

まとめ

柱穴やピット、溝などの遺構はすべて地山面から切り込んでいると考えられるが、上面が削平を受けており、遺物包含層も認められないために本来の遺

構の深さや規模は不明である。

次に、検出した各遺構の時期を考えると、確認調査でもあり全体に出土遺物は少なく、時期の決定は難しい。溝の北側で溝に切られた遺構からは、7世紀頃の須恵器の杯身が出土した。遺構の埋土も他の柱穴やピットと近似していることからこれらの遺構は同時期と考えたい。おそらく7世紀頃には複数の掘立柱建物が存在したことが想定できる。東西方向の溝については、時期は建物よりは新しいと言えるが、性格は調査範囲も狭小なため全く不明である。ただし、難波京との関連だけは指摘しておきたい。

また周辺の現地形を見ると、南には府立高津高校のグラウンドにかけて崖が見えるし、東にも下降し、西にも下降する複雑な地形を示している。調査地付近だけが平坦な地形となっている。7世紀頃の建物が存在することから考えて、この頃にはすでに平坦な地形を成していたと思われる。



図38 宰相山遺跡調査地位置図



図39 南北トレンチ西壁と溝

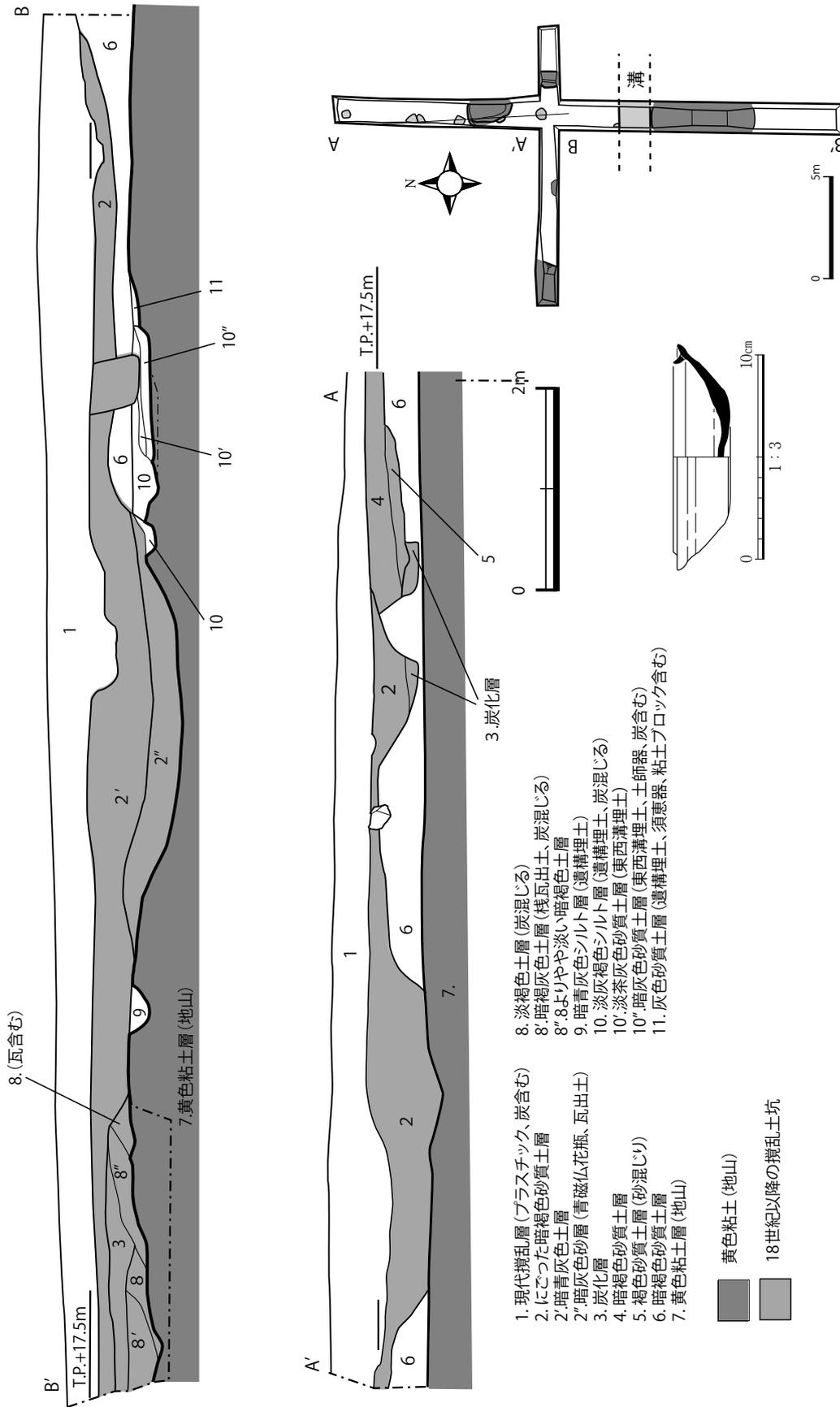


図 40 西壁断面図及び出土土器実測図

豊浦谷古墳群（16052）

- (1) 東大阪市東豊浦町
- (2) 府営枚岡公園長持石休憩所改修工事
- (3) 岡田 賢・市川 創・東大阪市教育委員会

はじめに

豊浦谷古墳群は、東大阪市東豊浦町に所在し、暗峠越奈良街道（現在の一般国道308号）を挟んで南北の尾根筋に、現在のところ4基が確認されている古墳群である。

この付近一帯の丘陵地は府営枚岡公園であり、この中にある長持石休憩所において老朽化に伴う改修工事が計画された。これが本古墳群のうち1号墳に近接しているため、事業課である八尾土木事務所都市みどり課と協議し、改修設計に先立ち、範囲確認のための調査を行うこととなった。調査実施は東大阪市教育委員会と共同で行った。調査区は休憩所西側に5.5m×4.5m（調査区1）、北側に7.0m×1.5m（調査区2）のトレンチを設定して行った。

調査成果

1号墳は、南に開口する横穴式石室をもつ古墳で、西側側壁と天井石の一部が、休憩所西側の斜面地に露出している。調査区1では、石室の奥壁や墳丘盛土の状況が確認できるものと期待されたが、調査ではこれらを確認することはできなかった。したがって石室の奥壁および側壁は、位置関係から既存ベンチの直下に存在することになる。

また調査区西端部中央は石室奥壁の裏側にあたるが、ここからL字状に配された石組が検出された。石組内部は一部空洞になっており、その観察によれば、最低でも2段の石を積み上げていることが認められた。またその空洞部には石室の天井石とみられる巨石が落ち込んでいる状況が観察された。この石組の性格や石室との関係については、今回の調査では明らかにすることはできなかった。



図41 豊浦谷古墳群調査地位置図

サブトレンチでは土層の堆積状況も確認した。表土下には古墳築造以降の盛土層が3層確認され、上位の2層には平安時代とみられる土器片が含まれていた。3層目には古墳時代の遺物が含まれていた。それらの盛土層の直下には墳丘盛土とみられる粘質シルト層が認められた。本層中には付近の基盤層中にみられる礫が多く含まれていた。本層は調査区外の東側にも続いたため、休憩所の下にも残存している可能性が高い。これら土層の堆積状況からは、現時点では1号墳が築造された後に墳丘盛土が削平された時期があり、さらに平安時代以降に盛土によって現況に近い平坦面が構築されたと考えられる。なお調査区の北部については、暗峠越奈良街道に向って下がる斜面になっており、そこに人頭大を主とする石の集積が認められた。これを覆う堆積土からは、江戸時代後期の磁器が出土していることから、その時期以降の人為的な石の集積であるが、性格は不明である。

調査区2は休憩所の北側に設けた東西方向のトレンチである。旧耕作土下には現代の盛土がり、その下位は垂角礫を含む粘質シルトからなる基盤層が認められた。

まとめ

今回の調査では石室奥壁や側壁は確認できなかったものの、古墳の築造以降、現況に至るまでの土地の改変過程については概要を得ることができた。石室の裏側に認められた石組の性格や、墳形、規模については、なお不明である。今後の調査で明らかにする必要がある。



図42 調査地全景（北東から）

藤の森古墳に副葬された鉄鉾

1. はじめに

本資料は、昭和40年に発掘調査を実施した藤の森古墳に副葬された鉄鉾である。この古墳は藤井寺市野中に所在する直径20mほどの円墳である。調査時の所見によれば、石室内部は盗掘による攪乱を受けていたが、短甲の破片をはじめ多数の鉄鏃、ガラス勾玉、ガラス丸玉、金銅製三輪玉、そして棺材を結合する鉄釘と鉄鏃などが発見されている。ただ、鉄製武器については、金銅製三輪玉は存在するものの「刀身は残存していなかった」とされ、現在保管している資料の中にも、ここで紹介する鉄鉾1点以外には、鉄刀や鉄剣は残片も認められない。

本資料は10片以上の破片に分離した状態で保管されてきた。さらに欠損や亀裂のために鉾先の一部が折れ曲がり、鉄鏃片の癒着もあり、本来の形状を推測するのも難しい状況であった。また、温湿度管理をした特別収蔵庫で保管しているとはいえ、劣化の進行は課題であった。

上述したように、この鉄鉾は藤の森古墳の副葬品では唯一の長柄武器である。その貴重な資料を将来にわたり保存するとともに、公開・展示できるよう、保存処理と復元作業を平成27年度に業務委託して実施した。

その結果、大部分の破片を接合することができた。袋部で破片の欠失があり全体が繋がらないため、鉾先の精確な形状や法量を示すことはできないが、おおよその形状を捉えることはできた。

加えて、新たな知見として、鉄製の石突の破片が鉾先の一部として混じっていたことも判明した。以下に、この鉄鉾について紹介する。

2. 鉾先

鉾先は、上述したように袋部の途中が欠失している、さらに切先と袋部端にも若干の欠損がみられることから、本来の大きさは不明であるが、推定される袋部の形状、および他の資料との比較などから、全長29cm、鉾先11cm、袋部18cm程度の長さを類推できる。

切先は幅狭でふくらみがない狭鋒式。身部は全長に対して40%ほどと推定されることから短身形に分類できる。身部と袋部の境に関をもつ両関式。身の中央には不鮮明ながら鎬が通り、断面は鈍いながら菱形を呈する。身幅と身厚は、Aラインで1.5cm・0.9cm、Bラインで1.9cm、1.1cmをそれぞれ測り、

身幅に対する身厚は約60%の扁平度である。

身部の鎬に平行するように縦方向に亀裂が生じている。製作時の鍛えの合わせ目が開いたのではないかと推測する。

袋部は身部よりさらに遺存状態が悪いが、本来の形状を推測することはできる。袋部は、断面がほぼ円形の円筒形である。袋部合わせ目は開き、端部は1.5cm程度割り込んだ山形抉り式である。図に向かって（以下、同様）合わせ目左側辺と釜口部1cmほどは原形を留めていると観察される。これに対して、一見すると原形を留めているようにみえる右側辺は破損している。

袋部はDラインで内径1.2～1.3cmを測るが、さらに釜口部側では加重を受けたためにやや扁平に変形していて、Eラインで横幅2.0cm・縦幅1.5cm、Fラインで横幅2.5cm・縦幅2.2cmである。

現状の袋部端から左側辺では2.0cm、右側辺では2.2cm上に、目釘孔が認められた。左側辺の目釘孔はエックス線写真で孔形が明瞭に捉えられたので、泥や錆を除去して孔を復元した。それに対して右側辺の目釘孔については、目釘の可能性のある鉄分が付着して、孔を完全に塞いでいるが、その輪郭を僅かに捉えることができる。いずれも孔径は0.3cmほどである。目釘孔は対をなしているが、袋部側面に沿って目釘が折り出していないことから、対をなす孔に目釘を通した一文字目釘式とみられる。

なお袋部内側には木柄の痕跡が遺存していた。そこで保存処理と合わせて木柄の樹種を分析し、同定することができた。その結果については後述する。

3. 石突

保存処理を行う前に、改めて鉄鉾とされた破片を並べ、仮復元を試みたところ、配列に収まりのつかない破片3点を認めた。そのうちの2点が図示した石突の破片である。なお残りの1点も石突の下端部の破片と思われるが、位置関係が明らかにならないことから、図には入れ込まなかった。

当初、石突の釜口部破片は、分離した鉾先と袋部の間に入るものと考えた。しかし木柄挿入部の内面形状が袋部と不調和であり、さらに部分的ながら釜口部は原形を保っているとみられること、そして石突先端破片の収まる位置が鉾先には見当たらないことから、形状も勘案して、石突と捉えた。

釜口部の破片は現長5.9cm、先端の破片の現長は

2.8cmで、木柄挿入部の状況から推測すると、本来の長さは10cm程度とみられる。

釜口部内面端は幅0.2cmにわたり0.1cmほど低くなっているように観察されるが、若干錆化が進んでいるため、確実ではない。木柄挿入部はGラインで復元内径2.6cm、Hラインで1.8cmを測る。また先端部の破片は、木柄挿入部の端にあたる。

釜口部破片の内面に、長さ0.7cmにわたる鉄分の膨らみがみられた。目釘の可能性も考えたが、表面には釘や釘孔の痕跡は認められず、また目釘にしてはやや低い位置にあるとみられることから、錆膨れである可能性も払拭できない。

なお石突の内面にも、木柄の残滓が認められた。

4. 鉄鉾木柄の樹種について

鉾先の袋部に残る木柄について、樹種の同定を行った。分析方法としては、木質の一部を採取して自然乾燥させたのちに木口（横断面）、柁目（放射断面）、板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する、というものである。

その結果、木柄に由来すると考えられる袋部内の木質は、広葉樹のブナ科に同定された。さらにコナラ節、クリ、シイ属のいずれかであることが判明したが、木質の劣化が進んでいるため細別はできなかった。ただ、コナラ節、クリ、シイ属は藤の森古墳が位置する地域においても生育が確認できる種類であり、またいずれも比較的重硬で強度が高い。大阪府和泉黄金塚古墳の鉄鉾の木柄がクリ属であるのをはじめ、ブナ科の木材が鉄鉾の柄に用いられていて、藤の森古墳例は整合的といえる。

■鉄鉾の分類にあたっては以下の文献を参考にした。

- ・白杵勲「古墳出土鉾の分類と編年」『日本古代文化研究』第2号、1985年
- ・高田貫太「古墳副葬鉄鉾の性格」『考古学研究』第45巻第1号（通巻177号）、1998年
- ・藤井章徳「古墳時代鉄鉾の袋部について」『元興寺文化財研究所創立40周年記念論文集』、2007年

■「4. 鉄鉾木柄の樹種について」は、株式会社文化財サービス『藤の森古墳、大県遺跡出土鉄製品保存処理業務（藤の森古墳編）業務報告書』（平成28年3月）を参考に執筆。

（三木 弘）

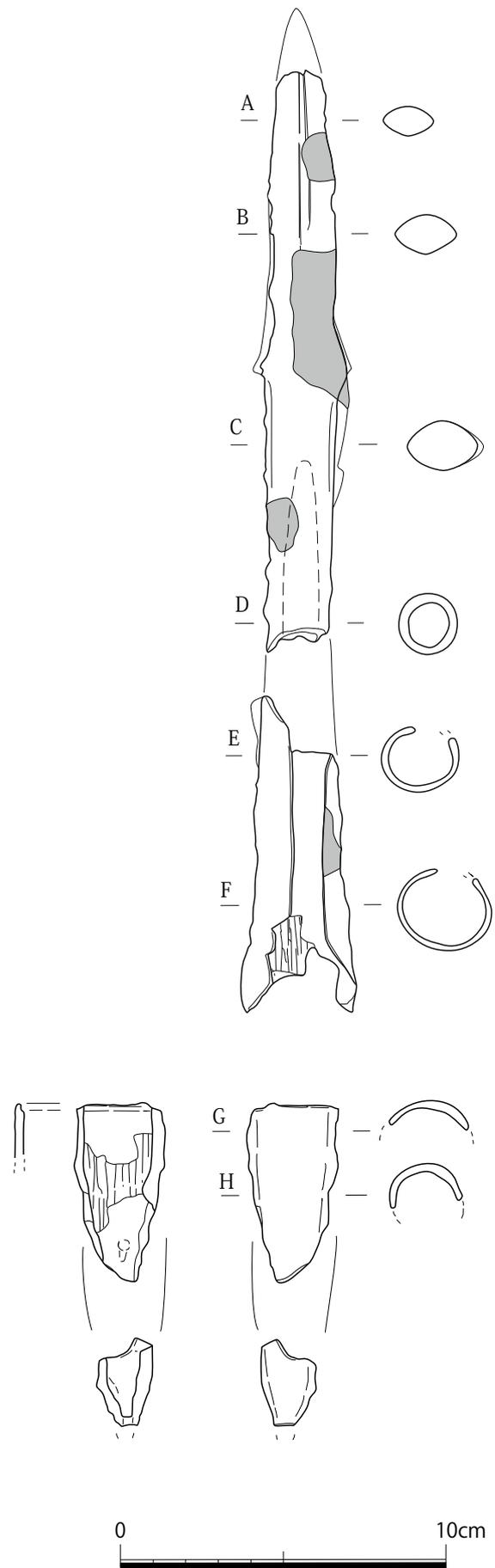


図43 藤の森古墳に副葬された鉄鉾

日下遺跡から出土した韓式系土器

はじめに

本資料は、堅田直氏（帝塚山大学名誉教授、平成18年逝去）が大阪信愛女学院短期大学在職中の昭和35年9月から調査責任者として実施した日下遺跡発掘調査で出土した資料である。

この日下遺跡出土資料は、堅田氏が発掘調査した他の遺跡の調査資料と共に平成27年に大阪府文化財調査事務所所蔵品となった。文化財調査事務所ではこれらの堅田調査資料を整理し、その結果を公開・活用していく方針を立てている。日下遺跡出土資料は、最初に再整理・報告する資料である。

1. 日下遺跡の戦前の調査

日下遺跡は東大阪市の生駒西麓沿いに広がる扇状地上に所在する。遺跡の発見は大正時代にさかのぼる。昭和7年に山内清男氏が日下貝塚から出土した縄文土器の中に東北地方の亀ヶ岡式土器が含まれていることを発表した（注1）。関西で東北地方の縄文土器が確認できたのは、この日下貝塚出土例が初めてであり、各地の縄文時代終末期の様相を比較研究できる学史上重要な発見となった。

昭和14年の梅原末治、小林行雄、藤岡謙二郎氏らによる調査では、五体の屈葬人骨が発見されている。しかし、縄文土器に土師器・須恵器が混在して出土する、すなわち包含層がかく乱を受けていたようで、明らかな遺構は検出されなかった（注2）。

2. 堅田氏による日下遺跡の発掘調査

堅田氏の調査は

第1次 昭和35年9月25日～9月30日

第2次 昭和39年3月15日～4月1日

第3次 昭和41年3月10日～3月25日

の3回にわたって実施されている。

現地調査については昭和42年に帝塚山大学考古学研究室により刊行された発掘調査報告書『東大阪市日下遺跡』に記述されている（注3）。報告書のトレンチ配置図から概算すると、調査面積は合計150㎡と推定される。

堅田氏は調査目的について

- ① 貝塚形成のあり方
- ② 人骨の年代を示す資料の有無
- ③ 貝殻の種類と景観復原

等の問題点を明らかにすると述べている。

調査の結果、縄文時代の人骨、古墳時代の馬骨、



図44 日下遺跡 調査地位位置図

大量の縄文土器、土師器、須恵器、石製品、鉄製品など多種多様の遺物の出土があったものの縄文時代の遺物のみを含む単純層は存在しなかったという結論に達している。しかし出土した資料は、いずれも考古学史に残る重要資料ばかりで、とくに古墳時代に属するタタキ目（平行文・格子文・縄蓆文）のある土器を堅田氏が「漢式系土器」と名付け紹介したことは、その後の渡来系土器の研究の先駆けとなったといえよう（注4）。

堅田氏はその後「漢式系土器」を「韓式系土器」という名称に改め（注5）、韓式系土器の分布研究調査や胎土分析などの重要性を説いている。堅田氏の発掘調査から50年近い年月が経過し、現在の研究レベルの進歩に照合しての再評価は必要不可欠と思われる。

今回、文化財調査事務所所蔵の日下遺跡出土資料を再整理した結果、判明した韓式系土器についての新知見を紹介するとともに、日下遺跡の韓式系土器の特徴を検討していきたい。

3. 日下遺跡（堅田調査資料）の韓式系土器

大阪府に寄贈された堅田調査資料日下遺跡出土資料は、大半が縄文土器だが、どのコンテナも土師器、須恵器が混在しているような状況であった。

再整理の結果総コンテナ数39箱となり、その内訳は縄文土器・石製品など合計18箱、土師器4箱、須恵器5箱、韓式系土器2箱、製塩土器・須恵器系土器1箱、その他（ふいごの羽口、鉾滓、金属製品、骨角製品など）1箱、動物遺体（貝類、骨片）4箱、人骨4箱である。

ここでいう韓式系土器とは、器形や製作技法が三国時代の朝鮮半島南部地域にあった百濟・新羅・伽

耶諸国で見られる陶質土器、赤褐色軟質土器に酷似したもので、渡来人が朝鮮半島からもちこんだ、あるいはこちらで製作した土器の総称として用いる。赤褐色軟質土器の影響を受けたものを韓式系(軟質)土器、陶質土器の影響を受けたものを韓式系(陶質)土器と呼称する。韓式系土器の器種、細部の名称については『葦屋北遺跡』2010 総括・分析編「古墳時代の出土土器と遺構の検討」(注6)に基づく。

堅田氏が論文で紹介した韓式系土器は、主に破片で、外面に施されたタタキ目の種類を3群8類に分類している(注4)。再整理の結果、日下遺跡の韓式系土器には壺・甕・鉢・鍋・甑・移動式カマド、羽釜などさまざまな器種が含まれていることが判明した。今回は新たに判明した器種を中心に紹介する。

韓式系(陶質)土器で判明した器種は壺がある。図45の壺は、口頸部、体部下半部のみの残存で、口径推定14.3cm、残存高25cmを測り、色調は赤褐色を呈す。堅田氏が作成し論文(注4)に掲載した復元図では、体部下半が細かい格子タタキ、胴部中位は縦方向の平行タタキ、その上かららせん状沈線、肩部から頸部はタタキ目をすり消しとされていたが、今回改めて観察・実測したところ、体部下半のみに格子タタキが施された壺と判明した。

復元図で胴部中位に配置されていた外面縦方向の平行タタキ、その上かららせん状の沈線が施された破片(図46)は、同一個体と考えられる頸部片が別に存在することから、図2の壺とは別個体と判断した。

軟質の韓式系土器は壺、甕、平底鉢、鍋、甑、羽釜、移動式カマドなどがある。図47-4~13の実測図はその一部である。4は平底鉢の口縁部で口径推

定12cm、5は平底鉢の底部、底径推定6.4cm、体部外面は平行タタキ目が残る。2点とも胎土は非生駒西麓産。6は鉢の口縁部で、外面は平行タタキ目が残る。胎土は生駒西麓産。7は平底の浅鉢、口径推定12.9cm、器高3.9cm、口縁端部は面を有し、体部と底部の境に緩いけずりが施されている。胎土は生駒西麓産。8は壺か甕の口縁部で口径推定19.6cm、胎土は非生駒西麓産。9は鍋か鉢、底部の形状は不明で口径推定19cm、真横にのびる把手をもち、胎土は生駒西麓産。12、13はともに鍋の口頸部である。12は口径推定25cm、13は口径推定29.4cmで外面平行タタキ目が施されている。2点とも胎土は生駒西麓産である。

図48は移動式カマドのかけ口、体部片、底部片である。かけ口上部は平坦面をもち、かけ口外径は推定28cm、体部外面は平行タタキが施されている。胎土は生駒西麓産である。

かけ口上部に平坦面を持つカマドは、製作時にかけ口を下に置く、つまり倒立させて作っている。寺井誠氏は、この方法は百済系の甑の製作技法を基に生み出されたものとの見解を示している(注7)。

同じような形状、調整の移動式カマドは、四條畷市葦屋北遺跡で多量に出土している(注6)。

図49は、羽釜の鏝の部分、甑の底部の破片などである。羽釜の鏝の部分は少なくとも4個体分確認している。鏝が真横に水平にのび、先端は面をなすものも存在し、かけ口に平坦面を持つ移動式カマドと組み合わせるものと思われる。鏝径は推定26cmとなる。

また、これまで平行タタキ、格子タタキ、縄蓆タタキの破片が確認されていたが、今回あらたに直線

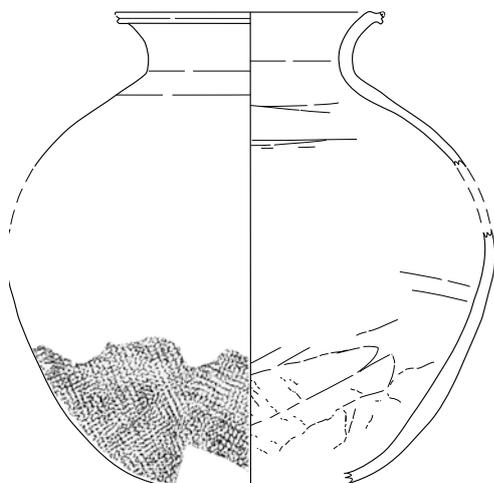


図45 韓式系(陶質)土器 壺



図46 韓式系(陶質)土器

文タタキ目を施した破片が含まれていることが判明した。図47-14~17は直線文タタキ目が施された破片である。直線文タタキ目は通常の平行タタキ目にほぼ直角に一本の直線が彫り込まれているもので、韓国では「単線横走集線文」と呼称されており、百済、馬韓と関係が深いタタキ目である。14~16は須恵質、17は土師質である。

4. 日下遺跡の韓式系土器の特徴

日下遺跡の韓式系土器には、生駒西麓産の胎土を持つ鍋、羽釜、移動式カマドなど煮沸に使用する軟質の韓式系土器が含まれていることがわかった。

このような韓式系土器は、北河内地域の河内湖東岸に位置する葎屋北遺跡、讃良郡条里遺跡、長保寺遺跡などで多く出土している。とくにこれまで葎屋北遺跡とその周辺の遺跡でしか出土していなかったかけ口に平坦面をもつ移動式カマドがみつかったことは、注目に値する。葎屋北遺跡は北河内に所在する百済系渡来人が開拓した古墳時代の牧である。

ここであらためて葎屋北遺跡と日下遺跡からの出

土資料の共通点を概観してみる。

- ① 5世紀中頃~後半の須恵器が出土していること
 - ② 軟質の韓式系土器で移動式カマド、羽釜などの煮沸に使用する器種が出土していること
 - ③ 直線文タタキ目の破片が出土していること
 - ④ コップ形の製塩土器が出土していること
 - ⑤ 須恵器系土器が出土していること
- などがあげられる。

須恵器系土器は、回転ヘラけずりや回転なでの使用、また高杯の杯部と脚部の接合方法に須恵器と同様の刻み目を入れるなど須恵器の影響を受け製作された土器である。しかし焼成は土師器よりは硬質に焼きあがっているが、あくまで酸化炎焼成で、色調は淡褐色や黄橙色を呈す。

日下遺跡では、このような須恵器系土器が少なくとも10個体以上確認できた。図47-1~3の高杯はその実測図である。同じような須恵器系土器は、北河内地域では葎屋北遺跡、長保寺遺跡、讃良郡条里遺跡などで、中河内地域では日下遺跡の南方に位置する鬼虎川遺跡など、韓式系土器が多く出土する

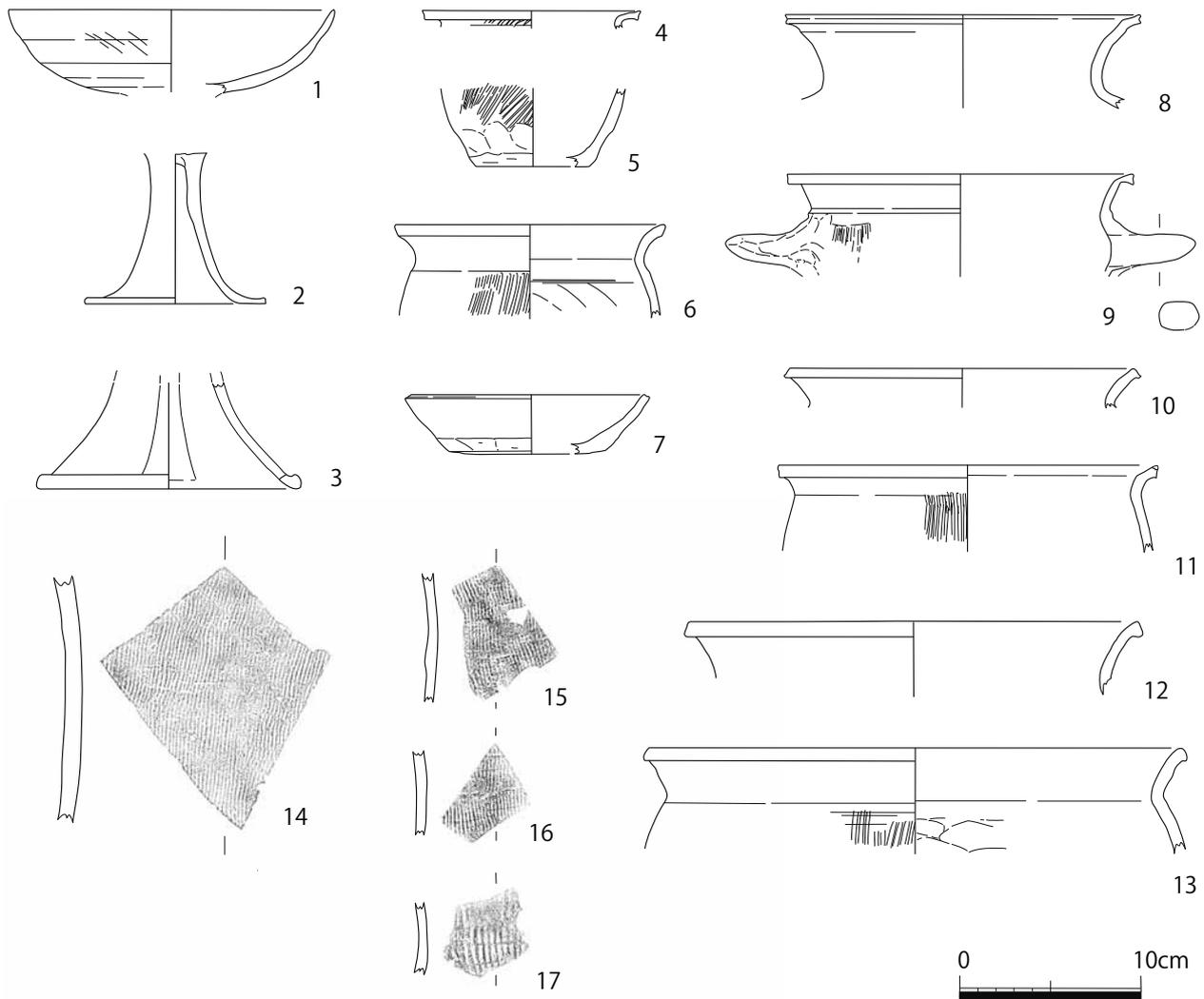


図47 韓式系土器、須恵器系土器実測図

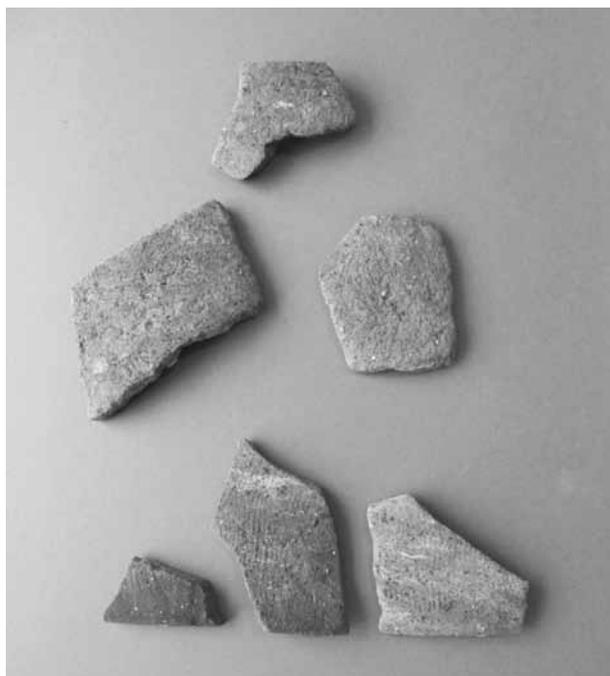


図 48 韓式系土器 移動式カマド

集落遺跡で出土している。

さらに葦屋北遺跡と日下遺跡との共通点で忘れてはならないのは、ともに馬埋葬土坑がみつかるということである。日下遺跡の古代馬(図 50)は、調査事務所に収蔵された後、古代馬研究会(注 8)のメンバーにより骨格の計測、骨片の第 1 回目の C 14 年代測定がなされ、5 世紀中頃から 6 世紀中頃との中間報告を得ている。

葦屋北遺跡は、河内湖東岸に位置し百済系馬飼い集団により開拓された牧であり、さらには北河内の玄関口としての役割を果たしていた集落である。日下遺跡も葦屋北遺跡と同様、百済系馬飼い集団の拠点の一つであり、河内湖東岸に位置する中河内の玄関口の役割を負った集落ではないかと考えられる。

今回、韓式系土器の再検討を通して古墳時代の日下遺跡の重要な一面を明らかにできたといえよう。今後はこれらの資料の公開を進めていく予定である。(藤田道子)



図 50 日下遺跡古代馬出土状況(堅田直氏撮影)



図 49 韓式系土器 羽釜・甑

注 1. 山内清男「日本遠古之文化」『ドルメン』1ノ6 昭和 7 年

注 2. 藤岡謙二郎「中河内郡孔舎衛村日下遺跡」『大阪府史蹟名勝天然記念物調査報告』第 12 輯 昭和 17 年

注 3. 帝塚山大学考古学研究室『東大阪市日下遺跡調査概要』昭和 42 年

注 4. 堅田直「枚岡市日下遺跡出土の漢式系土器について」『大阪私立短期大学協議会研究報告集』1964 年

注 5. 堅田直「韓半島伝来の叩目文土器(韓式系土器)について」『帝塚山考古学研究所設立記念 日・韓古代文化の流れ』帝塚山考古学研究所 1982

注 6. 大阪府教育委員会『葦屋北遺跡』2010

注 7. 寺井誠「新たなものを生み出す渡来文化—『百済のような百済でない竈』の紹介を通じて」『河内の開発と渡来人—葦屋北遺跡の世界—』大阪府立狭山池博物館 2016

注 8. 古代馬研究会の青柳泰介氏、丸山真史氏、菊池大樹氏、覚張隆史氏の諸氏には、馬骨の鑑定で大変お世話になりました。記して謝意を表します。

【資料紹介】

圀形埴輪の新資料—土師の里遺跡 1976～1979年の調査から—

1. はじめに

本稿で紹介する資料は、1976年から79年にかけて本府が実施した藤井寺市道明寺所在土師の里遺跡における個人住宅建設工事及びガス管理設工事等に伴う発掘調査（図51）で出土した形象埴輪資料であり、形状や形態からいずれも同一あるいは同タイプと判断される圀形埴輪である。調査当時は類例資料が乏しく、特殊な形象埴輪であるとの認識があったものの、全体形状が不明とされ未報告となっていた。今回、再整理を実施した結果、当該資料が周辺の狼塚古墳等からの出土例と同様、箱形を呈する分割型の圀形埴輪であることが判明した。

そこで、古市古墳群中における新たな圀形埴輪の出土例となる本資料を紹介し、古市古墳群における今後の形象埴輪研究に資することとしたい。

2. 発掘調査の概要

1976～1979年の調査において、古墳時代前期末から後期前半までの竪穴住居が発見されている。成果を個別にみても、76年度調査区では1基、77年度調査区では10基、79年度調査区では9基が見つかった。77年度調査区の10基は、重複関係があり、出土遺物から4世紀後葉～6世紀前葉までの期間に営まれたと考えられている。すべて一辺4～5mの方形プランである。また、79年度調査区の9基は、重複関係があり、5世紀中葉～7世紀中葉にかけて営まれたと考えられている。

本稿で紹介する資料の大半は、77年度調査区で発見された竪穴住居の埋没過程で堆積した土層から出土した資料である。住居址の時期は、4世紀後葉や5世紀後半、6世紀初頭の時期であり、調査区内

で埋没古墳の痕跡も見つかっていないことから、少なくとも6世紀初頭以降の時期に、近辺の塚穴古墳などの消滅古墳やもしくは埋没古墳に樹立されていた埴輪が流入したものと推測される。

3. 資料観察

図52・54・55の1～6は77-24区（1～3・5は第5住居址、4は第4住居址、6は第1住居址）、7は77-24区のすぐ東側の旧大阪外環状線内でのガス管理設に伴う調査（77-23区）、8・9は77-24区の北東、旧大阪外環状線を隔てた地点の76年度調査区、10・11は77-24区の東、旧大阪外環状線を隔てた東側の地点（79-15区）、12は宗善寺での、それぞれ土師の里遺跡の調査区から出土した資料である。また、13・14は青山古墳群出土資料であるが、これも未報告のままとなっており、同様の形態の圀形埴輪と考えられるため、合わせて紹介する。

1は、長側辺62.4cm、短側辺18.1cmを測る箱形で、平面長方形を呈する。器高は37.1cm以上であるが、頂部は残存しておらず、頂部の形状は不明である。長側面には上下に2条の帯状突帯（上：幅5.5cm、下：幅8.5cm）を、上方の突帯には3ヶ所に方形突起を貼りつけている。また、方形突起の左右に対応した2条沈線（幅5～6cm）が突帯の上下に施されている。短側面は、長側面からの帯状突帯は続かず、不整形の円形透かし孔が1対ある。ただし、透かし孔の位置は、一方は下半部でもう一方は上半部にある。また、底板があり、側面と一体となっている。箱形内部には長側辺をほぼ3等分する2ヶ所に支板となる仕切り板を取り付ける。この仕切り板と底部中央には円形透かし孔が穿たれている。

2は、1と同様の形状だが、長側面の沈線間隔が4cmと1よりも狭く、その施工単位も異なり、底板中央に透かし孔を持たないため、1と別個体と考えられる。

3は、2と同様の沈線の施工で、底板中央に円形透かし孔がないが、沈線間隔は5cmと2よりも広く、長側面の下の突帯幅は10cmと1・2よりも広い。このため、3は1・2とも別の個体の可能性がある。

4は1～3と同様、底部に帯状突帯をもつ破片で、幅は9.5cmと3に近いが、沈線間隔が6.7～7.8cmと1～3よりもさらに広く、別個体と考えられる。

5は長側面と短側面の角部分、6は長・短側面と底板の隅部分で短側面の下方に円形透かし孔を持

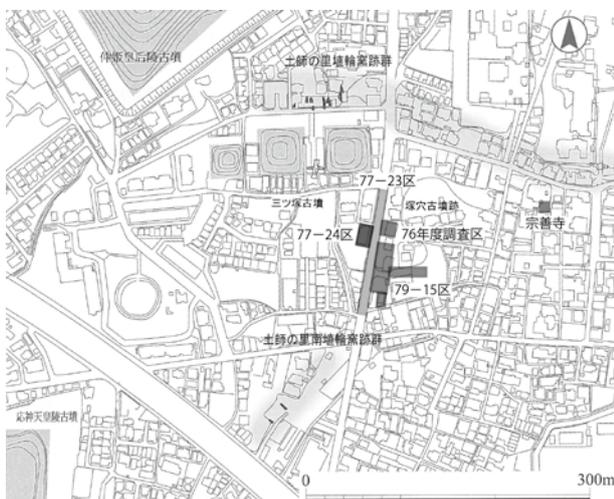


図51 土師の里遺跡調査区位置図

ち、1～3と同じタイプか、いずれかと同一個体となるものである。

7は上段の突帯とその上方部分、8・9は仕切り板にあたる部分で、ともに円形透かし孔をもつ。10は外面の帯状突帯や沈線、裏側の仕切り板の剥離痕などから箱形となる冴形埴輪の上半部分である。11は三角形の破片で、頂部の鋸歯状をなす部分にあたると思われる。なお、10・11は色調が灰黄褐色で、焼成胎土が他の1～9までの赤褐色を呈する資料と異なっている。また、11は残存部のみでは箱形の頂部か否か断定はできない。12は、1～11の出土地点から東に約150mと少し離れた調査区からの出土で、上段の突帯と方形の突起部分にあたる。

13は青山4号墳（墳丘長20mの造り出し付方墳）、14は青山1号墳（墳丘長72mの造り出し付円墳）からの出土である。13は、長側面と短側面の接する角部分で外面に突帯と方形突起があり、頂部には鋸歯状となる部分が残存する。14は、13と

同様外面に突帯と方形突起があり、内面には仕切り板の痕跡が残存している。13は箱形と断定できないものの、胎土・色調とも類似しており、青山古墳群の2例も、底板の有無はわからないものの、箱形の冴形埴輪であると考えられる。

4. 考察—まとめにかえて—

本稿で紹介した底板を持つ箱形の冴形埴輪は、今まで知られておらず、おそらく初めての報告例となるものと思われる。

これによって、箱形を呈する分割型の冴形埴輪は底板をもつ型式と持たない型式が存在することが判明した。

分割型の冴形埴輪は古市古墳群内で生産されていた可能性が高いと考えているが、底板の有無が工人集団差によるものか、同一生産体制内での型式変化を示すものなのか、今後資料の増加を待って検討すべき課題であり、分割型の冴形埴輪の出現過程や変遷について考える上で貴重な資料である。

(小浜 成)

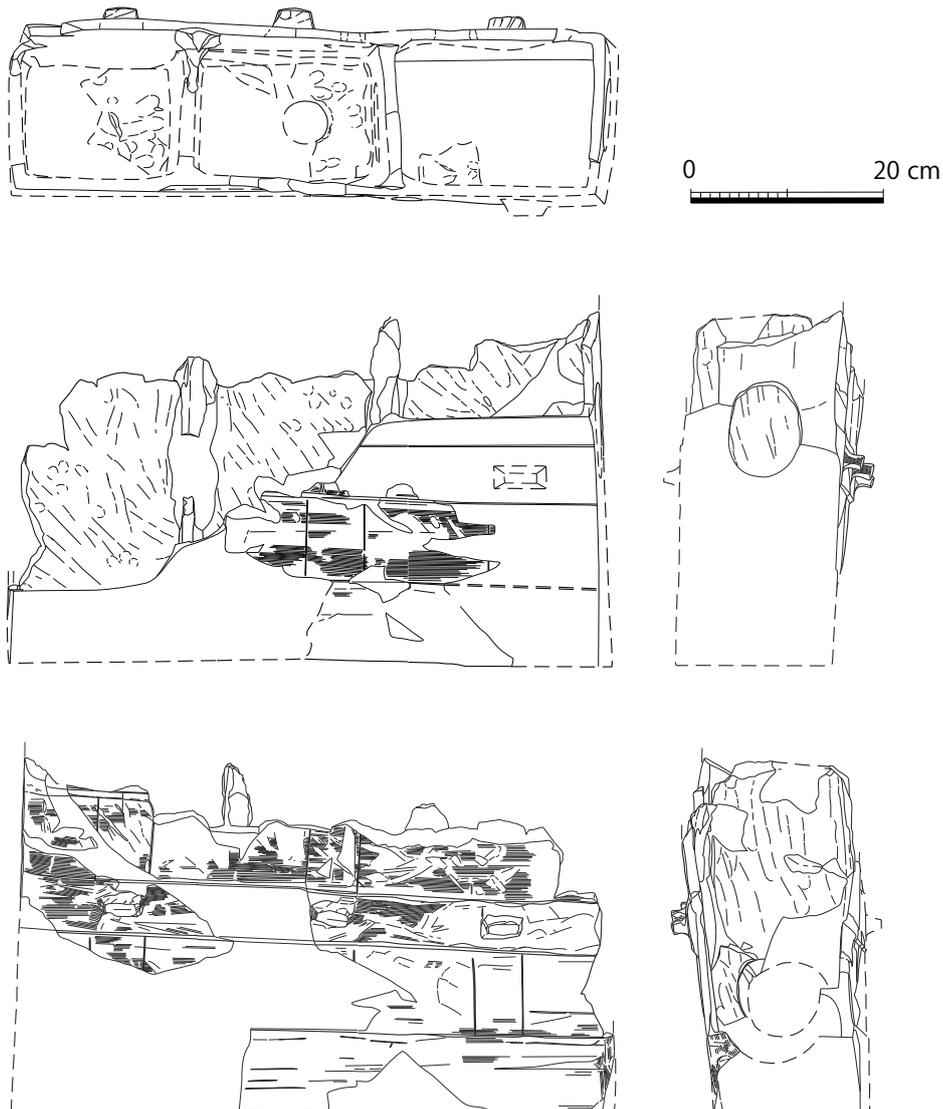


図 52 冴形埴輪実測図 (1)

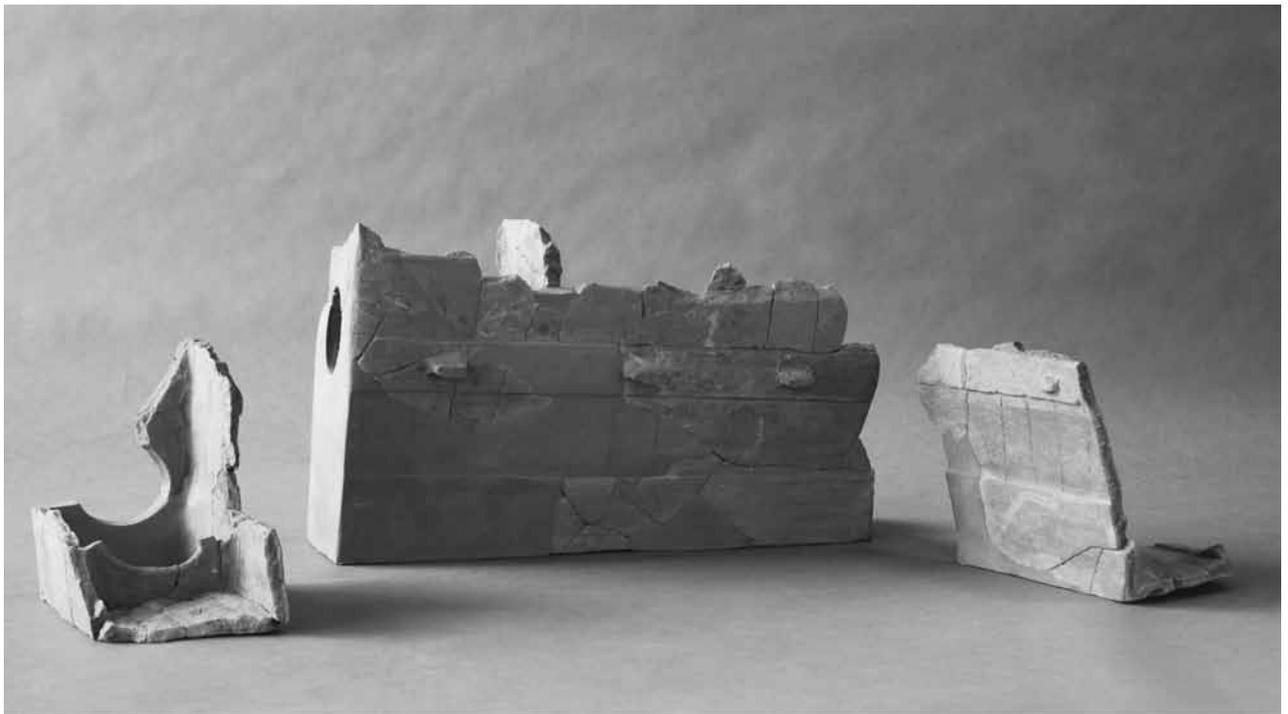


图 53 囿形埴輪集合写真

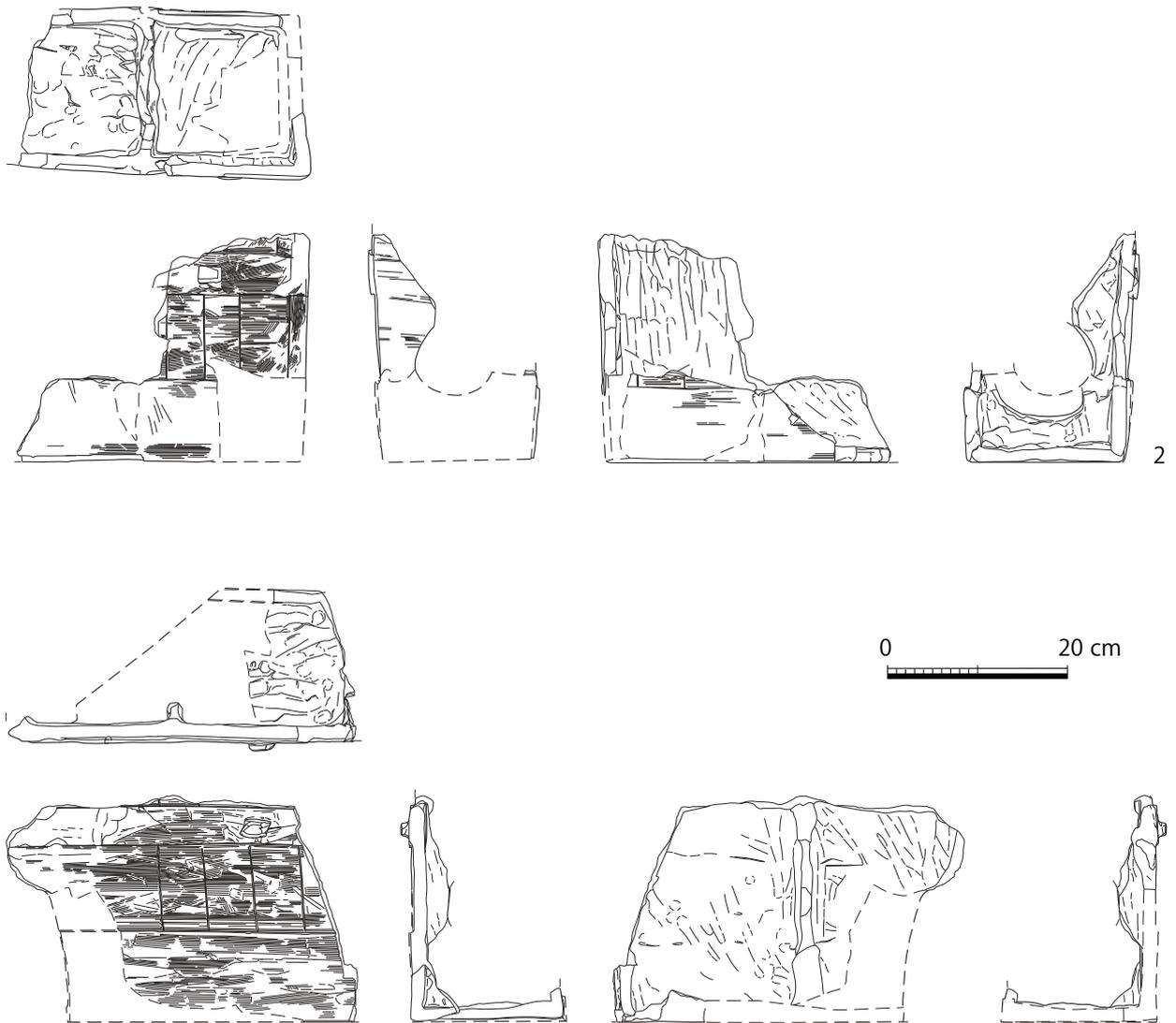


图 54 囿形埴輪実測图 (2)

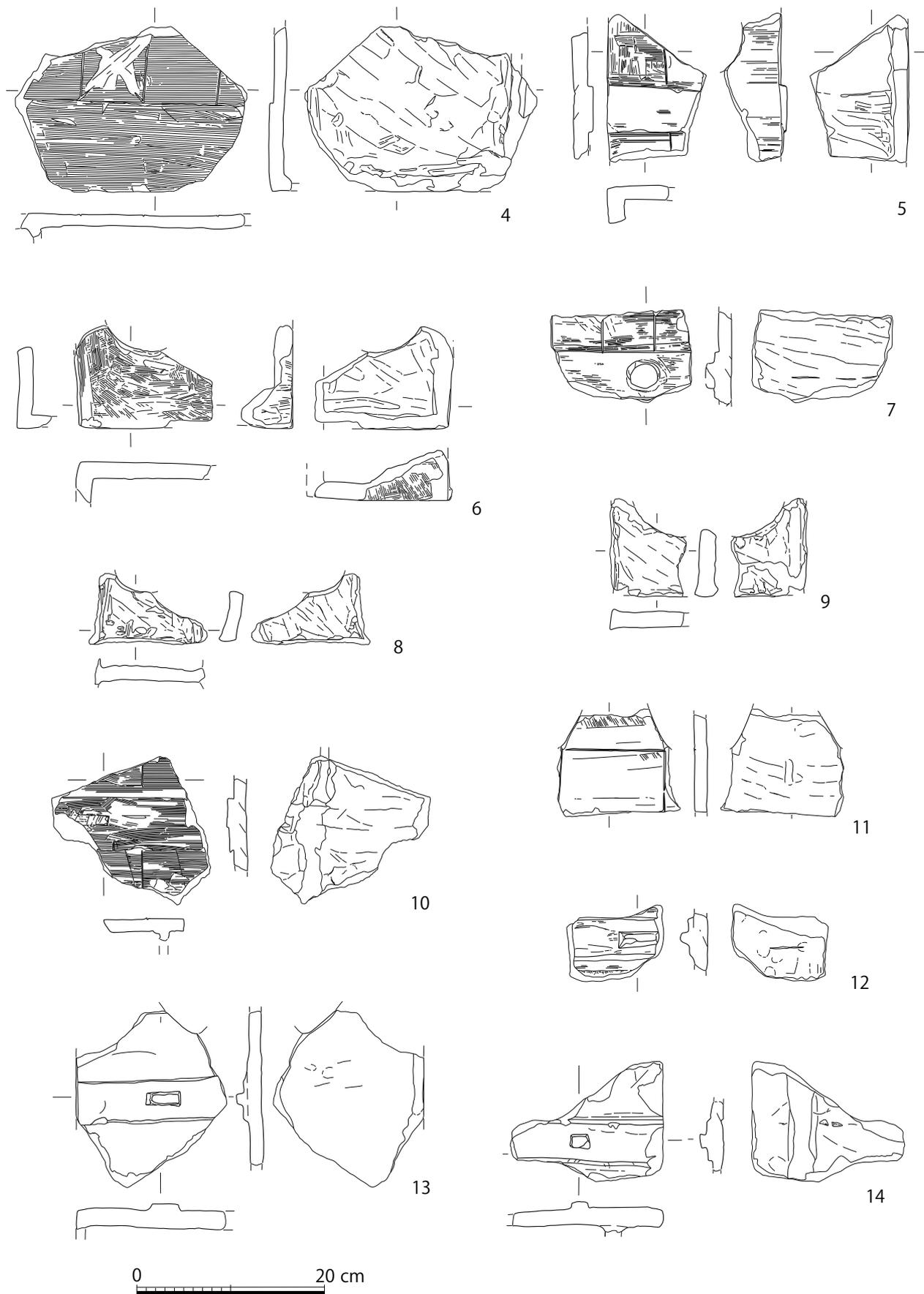


图 55 圆形埴輪実測图 (3)

■研修事業

国際協力機構（JICA）の海外研修生4名（エジプト1名、メキシコ1名、パレスチナ2名）に対して、「考古資料の発掘と保存管理」について、埋蔵文化財の発掘調査と保存管理を中心に、現状の説明と現場作業の体験を行った。

中学生の職場体験学習は堺市南区内の2校、計6名を受け入れた。出土遺物の整理作業（水洗、拓本）や梱包方法を実習するなど、調査事務所で行っている各種の業務を体験した。また後半に実施した中学校では、岸之本南遺跡（富田林市）を取り上げ、出土した初期須恵器などをロビーに展示した。

高校生（4名）のインターンシップについても、講義と業務体験を通じて文化財保護の意義と文化財調査事務所の役割について知る機会を設けた。

大学生（2名）のインターンシップは、2週間にわたり実施した。このため調査事務所内での実習と講義の他に、発掘調査現場での作業体験と文化財保護課が所管する収蔵庫での資料整理及び府立博物館の受付体験も行い、文化財保護への理解を深めた。

■発掘調査等の現地公開

府道新設に伴って和泉市府中遺跡を調査し、中世の建物跡と土坑及び縄文時代の石器、弥生から古墳時代前期の土器、中世・近世の土器などが出土した。

また府営住宅建替に伴って堺市宮園遺跡の調査を行った。この調査では、中世の粘土採掘穴と縄文時代の石鏃及び古墳時代後期の須恵器、古代から中世の土器類が発見されている。

これらの遺跡では、それぞれ現地公開を開催し、230名と400名の見学者が参加した。

また府立弥生文化博物館に隣接する、和泉池上文化財収蔵庫の特別公開を年間4回実施し、収蔵庫内で収納している池上曾根遺跡から出土した漁労関係の資料と、古墳時代の準構造船の部材及び縄文土器、弥生土器、須恵器、瓦等の見学と、須恵器等に直接触れる展示を行った。

4回の公開で、782名の参加があった。今後も、和泉池上収蔵庫の特別公開を継続する予定である。

■出かける博物館事業（展示・関連講演等）

府立狭山池博物館と河内長野市立ふるさと歴史学習館にて、府教育委員会と大阪狭山市教育委員会及び河内長野市教育委員会・府立狭山池博物館の共催で、「南河内の発掘成果展」を開催した。この展示会では、平成24年度に圃場整備事業に伴って実施した、河内長野市太井遺跡の発掘調査成果を展示した。



図56 中学生の職場体験



図57 大学生のインターンシップ



図58 府中遺跡現地公開



図59 和泉池上文化財収蔵庫の特別公開

また（公財）大阪府文化財センターと共催で、府立狭山池博物館にて「大和川今池遺跡の調査成果展」を開催し、平成26～27年度にかけて府道拡幅工事に伴う発掘調査で出土した、平安時代後期から鎌倉時代の瓦類を展示した。それぞれの展示会に伴う講演会も開催した。

さらに府立弥生文化博物館の弥生プラザコーナーの展示として、2回の展示を行った。1回目としては、池田市柳原遺跡出土の弥生時代後期の土器を展示した「発見された粘土採掘穴」を開催した。2回目の展示では、「発見された縄文のムラ」のテーマで、河内長野市鳩原遺跡出土の縄文時代中期末から後期にかけての土器と石器を展示した。

また茨木市立文化財資料館にて、「府立福井高校に眠る遺跡—西福井遺跡の調査成果—」展を開催し、展示会に関連した講演会も実施した。

加えてドーンセンター4階の展示コーナーに「信長・秀吉時代の暮らしの風景」のテーマで、大坂城三の丸跡から出土した当時の生活用品を展示した。

■出かける博物館事業（講演・遺跡案内、イベント応援等）

各種の機関・団体等から依頼を受けて、年間22回の講演会と講座等に講師を派遣している。

特に平成28年度は、大東市教育委員会と共催で開催した、市制60周年記念事業「府市連携文化財連続講座」に、5人の講師を派遣し、講演会を実施した。

府教育庁では、職員の研究や実績に基づいた講師依頼に対しては、対応するように努めている。

■出前授業と出張展示（府市連携事業）

平成28年度から府教育委員会と富田林市教育委員会及び大阪狭山市教育委員会の間で、それぞれ文化財普及・活用の連携事業を9回実施した。

主に小中学校への出前授業と富田林市内の公共施設等での出張展示が中心であり、特に大阪狭山市立東小学校では、6年生4クラス（158名）を対象に、発掘調査成果を活用した「郷土の歴史における狭山藩陣屋」の授業を行った。

■ホームページでの調査成果公開

発掘調査については、5遺跡の調査成果を公開した。主に、現地公開を実施することができなかった遺跡を中心に紹介を行った。

また以前の発掘調査によって出土した遺物のうち、再検討が必要なものについては、改めて整理を進めている。この再整理事業として、「茨木市西福井遺跡の調査成果」と「高石市大園遺跡出土の土錘」及び「東大阪市日下貝塚出土の縄文土器」の3遺跡の資料をホームページで紹介した。（渡邊昌宏）



図60 文化財調査事務所の見学会



図61 「大和川今池遺跡の調査成果展」講演会

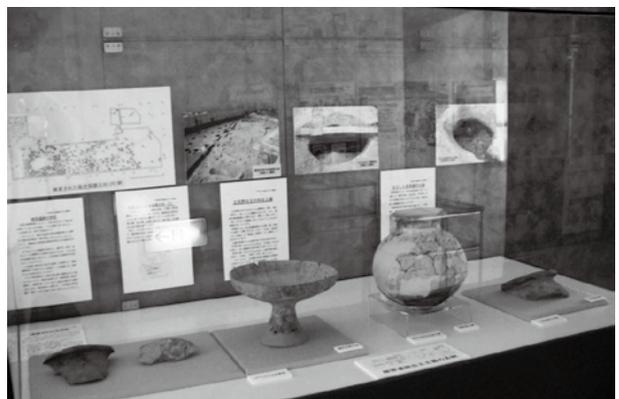


図62 府立弥生文化博物館・弥生プラザ
「発見された粘土採掘穴—池田市柳原遺跡—」



図63 小学6年生の出前授業

平成 28 年度収蔵資料

収蔵資料	(4) 上平家資料	150 点	
■埋蔵文化財（各収蔵庫・整理箱数）	(5) 畑野家資料	68 点	
(1) 北部収蔵庫（摂津市烏飼中）	2,815 箱	(6) 三宅家資料	一括
(2) 東大阪収蔵庫（東大阪市長田東）	24,372 箱	(7) 大恩寺資料	一括
(3) 泉北収蔵庫（高石市綾園）	36,245 箱	(8) 前西家資料	22 件
(4) 文化財調査事務所（堺市南区竹城台）	6,588 箱	■美術工芸品	
(5) 泉佐野収蔵庫（泉佐野市日根野）	45,319 箱	(1) 田中家文書一括	5 箱4,100 点
(6) 近つ飛鳥博物館（河南町大字東山）	7,762 箱	(2) 「府立大阪博物場」資料	
(7) 和泉池上収蔵庫（和泉市池上町）	45,096 箱	・旧蔵美術工芸品（大阪府指定文化財）	277 点
■民俗文化財		・古銭（大阪府指定文化財）	4 箱3,078 点
(1) 谷口家資料	221 点	・その他博物場資料	一括
(2) 上辻家資料	132 点	■その他写真・図面・図書資料	一括
(3) 守田コレクション	200 点		

平成 28 年度調査・研究等の検討会

第1回 2016年4月13日（水）	「磯長谷の陵墓と太平塚古墳」	山本 彰	第7回 2016年11月9日（水）	「屋根型木製品の検討」	松岡良憲
第2回 2016年5月11日（水）	「洛陽発見の三角縁神獣鏡実見報告」	西川寿勝	第8回 2016年12月14日（水）	「大和川今池遺跡の発掘調査（その2）」	山田隆一
第3回 2016年6月8日（水）	「埋蔵文化財発掘調査工事における事故防止・安全対策について」	石角三夫	第9回 2017年1月11日（水）	「府中遺跡の調査—平成27・28年度」	岩瀬 透・松岡良憲
第4回 2016年7月14日（水）	「水越遺跡の調査成果」	小林義孝	第10回 2017年2月8日（水）	「西福井遺跡の発掘調査について」	西口陽一・小林義孝
第5回 2016年9月14日（水）	「弥生博弥生プラザ「西を向くムラ、東を向くムラ」追考」	三木 弘	第11回 2016年3月8日（水）	「石津川流域の歴史」	橋本高明
第6回 2016年10月12日（水）	「文化財に関する情報の共有・発信についての試論」	市川 創			

平成 28 年度大阪府教育庁文化財保護課刊行物一覧

大阪府埋蔵文化財調査報告	2016-5 『瓜破北遺跡Ⅳ—府営瓜破二丁目住宅建替えに伴う発掘調査—』
2016-1 『上垣内遺跡Ⅱ—都市計画道路梅が丘高柳線の建設に伴う調査—』	2016-6 『大和川今池遺跡—都市計画道路堺港大堀線整備事業に伴う発掘調査—』
2016-2 『西福井遺跡—一般府道余野茨木線歩道整備工事に伴う発掘調査—』	中・北河内における中世城館の調査
2016-3 『水越遺跡・太田川遺跡—寝屋川流域下水道枚岡河内南幹線（二）下水管渠築造工事に伴う発掘調査—』	年報
2016-4 『尺度遺跡—動物愛護管理センター（仮称）建設に伴う発掘調査—』	『大阪府教育庁文化財調査事務所年報 20』

表4 平成28年度 文化財調査事務所での普及・啓発・公開事業一覧(1)

事業	事業名	実施年月日	実施場所	内容	対象	備考	
研修	インターンシップ(高校生)	2016年7月25日～7月27日	調査事務所ほか	文化財調査事務所の業務実習	府立堺工科高校 府立清水谷高校 希望者	府事業	
	インターンシップ(大学生)	2016年8月1日～8月12日	調査事務所ほか	文化財調査事務所の業務実習	京都女子大学 立命館大学 希望者	府事業	
	職場体験学習(中学生)	2016年11月10・11日	調査事務所	文化財調査事務所の業務実習	堺市立赤坂台中学校 体験希望者		
	国際協力機構(JICA)研修	2016年11月28日～12月2日	宮園遺跡・調査事務所ほか	博物館とコミュニティ開発コース「考古資料の発掘と保存管理」	JICA 研修生(エジプト・メキシコ・パレスチナ計4名)		
	職場体験学習(中学生)	2017年2月8日～10日	調査事務所	文化財調査事務所の業務実習	堺市立福泉南中学校 体験希望者		
発掘調査の現地公開	府中遺跡現地公開	2016年5月15日	和泉市府中遺跡現地	府道建設に伴う調査内容の公開	一般	文化財保護課ホームページ埋蔵文化財情報でも公開	
	宮園遺跡現地公開	2016年12月10日	堺市宮園遺跡現地	府営住宅建替に伴う調査内容の公開	一般	文化財保護課ホームページ埋蔵文化財情報でも公開	
出かける博物館事業(展示・関連講演会等)	弥生プラザ展示「西を向くムラ、東を向くムラ」	2016年1月16日～7月1日	府立弥生文化博物館	和泉市府中遺跡・寺田遺跡、岸和田市大町遺跡の弥生後期から古墳前期の外來系土器を展示	一般	文化財保護課ホームページ埋蔵文化財情報でも公開	
	「信長・秀吉時代の暮らしの風景」	2016年4月4日～2017年3月31日	府立ドーンセンター4階展示コーナー	大坂城出土の生活用品を展示	一般		
	府立狭山池博物館展示「南河内の発掘成果展」	2016年4月26日～5月22日	府立狭山池博物館	河内長野市太井遺跡出土の中世資料を展示	一般	文化財保護課ホームページ埋蔵文化財情報でも公開	
	河内長野市立ふるさと歴史学習館展示「南河内の発掘成果展」	2016年5月25日～7月3日	河内長野市立ふるさと歴史学習館	河内長野市太井遺跡出土の中世資料を展示	一般	文化財保護課ホームページ埋蔵文化財情報でも公開	
	弥生プラザ展示「発見された粘土採掘穴」	2016年7月5日～2017年1月29日	府立弥生文化博物館	池田市柳原遺跡出土の弥生後期土器類を展示	一般	文化財保護課ホームページ埋蔵文化財情報でも公開	
	文化財収蔵庫特別公開「大阪湾の漁撈」	2016年7月7日	和泉池上文化財収蔵庫	池上曾根遺跡などから出土した漁撈関係の収蔵資料を公開展示	一般	文化財保護課ホームページ埋蔵文化財情報でも公開	
	文化財収蔵庫特別公開	2016年8月20日	和泉池上文化財収蔵庫	府立弥生文化博物館の「夏休みフェスタ」に関連して、ワークショップと収蔵資料を公開展示	一般	文化財保護課ホームページ埋蔵文化財情報でも公開	
	戦国時代末の都市・まちサミット 第1回大坂城下町	2016年9月15日～2017年3月中旬	富田林寺内町センター	大坂城ドーンセンター地点出土の磁器、陶器類を展示	一般	大阪府教育委員会と富田林市教育委員会との連携事業	
	「府立福井高校に眠る遺跡―西福井遺跡の調査成果―」	2016年10月8日～2016年12月5日	茨木市立文化財資料館	茨木市西福井遺跡出土の資料を展示	一般	文化財保護課ホームページ埋蔵文化財情報でも公開	
	文化財収蔵庫特別公開	2016年10月22日・23日	和泉池上文化財収蔵庫	和泉市商工まつりに伴って府内の各遺跡から出土した船関係資料と陶棺及び土器・瓦類を公開展示	一般	文化財保護課ホームページ埋蔵文化財情報でも公開	
	文化財収蔵庫特別公開「船づくし」	2016年11月10日	和泉池上文化財収蔵庫	府内の各遺跡から出土した船関係資料を公開展示	一般	文化財保護課ホームページ埋蔵文化財情報でも公開	
	「大和川今池遺跡の調査成果展」	2016年12月17日～2017年1月22日	府立狭山池博物館	松原市大和川今池遺跡出土の資料を展示	一般	文化財保護課ホームページ埋蔵文化財情報でも公開	
	「お茶碗のいろは展」	2017年1月9日	富田林寺内町旧田中家住宅	大坂城西町奉行所跡等から出土の茶碗を展示	一般	大阪府教育委員会と富田林市教育委員会との連携事業	
	「すばるホール経由遺跡ブラ散歩」	2017年1月21日～2月22日	すばるホール	富田林市内遺跡の出土資料を展示	一般	大阪府教育委員会と富田林市教育委員会との連携事業	
	「歴史発掘おおさか2016―大阪府発掘調査最新情報―」	2017年1月22日～3月20日	府立近つ飛鳥博物館	「大園遺跡」・「大和川今池遺跡」を展示	一般		
	弥生プラザ展示「発見された縄文のムラ」	"2017年2月1日～7月30日"	府立弥生文化博物館	河内長野市鳩原遺跡出土の縄文土器と石器類を展示	一般	文化財保護課ホームページ埋蔵文化財情報でも公開	
	「かがり台につながる丘陵の古墳群」	2017年2月23日～4月30日	かがり台の郷コミュニティセンター	寛弘寺古墳群、神山丑神古墳群の副葬品を公開展示	一般	大阪府教育委員会と富田林市教育委員会との連携事業	
	「長曾根遺跡展」	2017年3月18日～26日	堺市長曾根町自治会館	堺市長曾根遺跡から出土した墨書土器等を展示	一般		
	出かける博物館事業(講演・遺跡案内等)	弥生プラザ展示関連ミニシンポジウム	2016年4月9日	府立弥生文化博物館	「西を向くムラ、東を向くムラ」	一般	文化財保護課ホームページ埋蔵文化財情報でも公開
		近つ飛鳥博物館の春季特別展ミニシンポジウム	2016年5月8日	府立近つ飛鳥博物館	「古墳における儀礼の場とその変遷」	一般	
		「南河内の発掘成果展」関連講演会	2016年5月14日	府立狭山池博物館	「発掘された炭窯」	一般	河内長野市教育委員会職員が講演
		よみうり京都文化センター「特別考古学講座」	2016年6月4日	メルパルク京都カールチャールーム	「埴輪から見た古市古墳群の歴史的意義」	講座応募者	
		くすのきカレッジ日本史・郷土史学科	2016年7月12日	東大阪市くすのきプラザ	「大和川の流路変遷」	一般	
ブル学院中学高等学校教員研修会		2016年8月19日	学校法人ブル学院中学高等学校	大阪の歴史散策「真田信繁と真田丸」	関係者		
第22回郷土史教室講座		2016年10月15日	茨木市立文化財資料館	「西福井遺跡の発掘成果と地域の歴史」	一般	「府立福井高校に眠る遺跡―西福井遺跡の調査成果―」関連講演会	
特別展「河内の開発と渡来人―部屋北遺跡の世界―」歴史セミナー		2016年10月16日	府立狭山池博物館	「部屋北遺跡の発掘成果」	一般		
「街道シリーズ」講演会		2016年11月13日	柏原市役所別館	「茅渚の道について」	一般		
府市連携文化財連続講座		2016年12月1日	大東市生涯学習センター特別会議室	「縄文時代の北河内」	一般	大阪府教育委員会と大東市教育委員会との共催事業	
第16回なにわ歴史シンポジウム「蘇えるおおさかの縄文文化」		2016年12月3日	大阪歴史博物館	「森の宮貝塚の調査成果と府内縄文遺跡の最近の調査について」	一般		
立命館大学の考古学・文化遺産総説講義		2016年12月7日	立命館大学	「キリシタン考古学の現状と課題」	講座応募者		

表4 平成28年度 文化財調査事務所での普及・啓発・公開事業一覧(2)

事業	事業名	実施年月日	実施場所	内容	対象	備考
出かける博物館事業(講演・遺跡案内等)	府市連携文化財連続講座	2016年12月15日	大東市生涯学習センター特別会議室	「河内平野と大和川」	一般	大阪府教育委員会と大東市教育委員会との共催事業
	シンポジウム『「真田丸」の歴史学』	2016年12月17日	大阪歴史博物館	「見えてきた豊臣期大坂城本丸」	一般	
	くすのきカレッジ日本史・郷土史学科	2017年1月10日	東大阪市くすのきプラザ	「東高野街道と大坂の陣」	一般	
	「大和川今池遺跡の調査成果展」関連講演会	2017年1月14日	府立狭山池博物館	「大和川今池遺跡の調査成果」	一般	(公財)大阪府文化財センター職員が講演
	府市連携文化財連続講座	2017年1月19日	大東市生涯学習センター特別会議室	「大王墓の時代と堂山1号墳」	一般	大阪府教育委員会と大東市教育委員会との共催事業
	堺自由の泉大学	2017年2月2日	堺市立女性センター	「土師氏と堺ー埴輪づくりと古墳のマツリー」	一般	
	府市連携文化財連続講座	2017年2月2日	大東市生涯学習センター特別会議室	「河内湖東岸の遺跡と東アジア」	一般	大阪府教育委員会と大東市教育委員会との共催事業
	NPO法人かなえ会 冬講座	2017年2月10日	(公財)住吉隣保事業推進センター	「豊臣期大坂城の最新研究成果」	講座応募者	
	くすのきカレッジ日本史・郷土史学科	2017年2月14日	東大阪市くすのきプラザ	「河内キリシタン・その後」	一般	
	府市連携文化財連続講座	2017年2月16日	大東市生涯学習センター特別会議室	「古代・中世の讃良郡」	一般	大阪府教育委員会と大東市教育委員会との共催事業
	堺自由の泉大学	2017年3月16日	堺市立女性センター	「堺と大阪ー秀吉の頃ー」	一般	
	春季特別展関連講演会	2017年3月26日	高槻市立今城塚古代歴史館	「総持寺古墳群と太田茶臼山古墳」	一般	
イベントの応援その他見学者	自然シニアカレッジOB会	2016年7月20日	文化財調査事務所	展示コーナーの見学	関係者	
	弥生文化博物館 土器パズル体験	2016年10月22日・23日	池上曾根史跡公園	土器パズル等イベント応援	一般	「和泉市商工まつり」関連イベント
	泉北若竹保育園	2017年2月23日	文化財調査事務所	展示コーナーの見学	関係者	
	府立近つ飛鳥博物館 うめまつり安藤忠雄氏講演会	2017年3月4日	府立近つ飛鳥博物館	講演会等イベントの応援	一般	近つ飛鳥梅いっぱい委員会
府立弥生文化博物館 弥生フェスティバル	2017年3月25～26日	府立弥生文化博物館	体験イベントの応援	一般	府立弥生文化博物館無料開放	
文化財保護課ホームページでの調査成果公開	上垣内遺跡	2015年4月～7月調査	埋蔵文化財情報発掘調査情報	府道新設に伴う調査。古墳時代後期の竪穴住居跡3棟と奈良時代の掘立柱建物跡1棟が発見された。	一般	2016年1月から公開
	大園遺跡	2016年9月16日から公開	埋蔵文化財情報出土資料紹介	第二阪和国道、府道松原泉大津線の建設に伴い発掘調査を実施した。この調査で出土した古墳時代の土鍾を紹介。	一般	
	西福井遺跡	2016年10月27日から公開	埋蔵文化財情報学校に眠る遺跡	府立福井高等学校新設工事に伴う発掘調査によって、縄文時代から中世にかけての遺構・遺物が発見された。	一般	
	府中遺跡	2016年1月～9月調査	埋蔵文化財情報発掘調査情報	府道新設に伴う調査で、平成28年1月～9月にかけて調査。弥生時代から古墳時代にかけての河川跡と古墳時代の竪穴住居跡及び平安時代の掘立柱建物跡等が発見された。	一般	2016年11月から公開
	西福井遺跡	2016年11月調査	埋蔵文化財情報発掘調査情報	府道の歩道整備工事に伴う調査で、平成28年11月に実施した。今回の調査で、縄文時代の土坑と中世の遺構・遺物が発見された。	一般	2016年12月から公開
	大和川今池遺跡	2016年1月調査	埋蔵文化財情報発掘調査情報	府道の拡幅工事に伴う調査で、平成28年1月に実施した。平安時代の建物跡等の遺構が確認された。また今回の調査では、平安時代の屋敷地を区画する溝も見つかっている。	一般	2017年1月から公開
	日下遺跡	2017年2月20日から公開	埋蔵文化財情報発掘調査情報	堅田直氏(故人)が昭和35年、39年、41年に発掘調査を実施した。その際に出土した縄文土器が、平成26年度に大阪府に寄贈された。今回は縄文晩期の資料を紹介。	一般	
	宮園遺跡	2016年6月～2017年3月調査	埋蔵文化財情報出土資料紹介	府営住宅建替に伴う調査で、平成28年6月から平成29年3月まで調査を実施した。今回の調査で、古墳時代の河川跡、古代の土坑、中世の土坑群および井戸等が発見された。	一般	2017年3月から公開
出前授業	博物館展示解説	2016年7月28日	堺市博物館	百舌鳥・古市古墳群と世界文化遺産について	府立三国丘高校定時制課程 放送研究同好会	
	夏休み体験講座	2016年8月5日	富田林市立中央公民館	土器作り体験等	小学3～6年生と保護者の講座希望者	大阪府教育委員会と富田林市教育委員会との連携事業
	社会科出前授業	2016年9月6日	大阪狭山市立東小学校	郷土の歴史における狭山藩陣屋(発掘調査成果の活用等)	小学6年生4クラスと保護者	大阪府教育委員会と富田林市教育委員会との連携事業
	社会科出前授業	2016年9月6日	富田林市立大伴小学校	社会科歴史の体験学習(火起こし体験から学ぶこと)	小学6年生3クラス	大阪府教育委員会と富田林市教育委員会との連携事業
	社会科出前授業	2016年10月28日	富田林市立葛城中学校	社会科歴史の体験学習(火起こし体験から学ぶこと)	中学1年生2クラス	大阪府教育委員会と富田林市教育委員会との連携事業
	社会科出前授業	2017年2月16日	富田林市立伏山台小学校	社会科歴史の体験学習(火起こし体験から学ぶこと)	小学3年生2クラス	大阪府教育委員会と富田林市教育委員会との連携事業

平成 28 年度資料貸出・掲載・閲覧事業一覧

表 5 実物資料・複製資料長期貸出

件数	申請者	遺跡	資料内容	点数	目的				
1	奈良国立博物館	新堂麿寺	軒丸瓦 7、鴟尾片 2、榿先瓦 1	16	常設展示（仏教考古及び歴史考古の名品）				
		河内寺	軒丸瓦 2、軒平瓦 2						
		百済寺	軒丸瓦 1						
		高宮麿寺	軒丸瓦 1						
2	高槻市教育委員会	太田茶臼山古墳	円筒埴輪 3	3	今城塚古代歴史館で常設展示				
3	大阪狭山市教育委員会	池尻城跡	瓦器（椀 13、椀片 6、皿 8）、瓦質釜 2、須恵器 11、青磁 4、瓦 5、土師器（釜 6、皿 10、壺 1）、陶器（東播 1、陶甕 2、備前 1、常滑 3、甕 2）、遺物袋 7	82	郷土資料館での常設展示				
4	堺市博物館	余部遺跡	瓦器（椀 27、皿 6）、瓦質釜 1、土師皿 1、鉄製刀子 1、鋳型 29、鉄塊 7、鞆口 18、砥石 7、青銅製品 2	99	みはら歴史博物館での常設展示				
5	府立四條畷高等学校	雁屋遺跡	弥生後期（鉢 4、甕 7、壺 4、高杯 2、器台 3、台付鉢 2、長頸壺 1、台付甕 1、手焙り 2） 弥生中期（壺 3、無頸壺 1、蓋 1、高杯 1） 須恵器（杯 2、蓋 1、高杯 1、平瓶、壺 1、ハソウ 1、土師器（壺 2）、黒色土器椀 1、石器（砥石 4、石鏃 5）	78	教材として展示・活用				
		更良岡山遺跡	円筒埴輪 3、須恵器 3						
		その他	写真・解説パネル 21						
		府中遺跡	弥生土器（高杯 1、壺 7、甕 2、蛸壺形 2）						
6	和泉市教育委員会	坂本寺跡	軒瓦（丸 5、平 5、丹弁蓮華 1 を追加）	141	いづみの国歴史館での常設展示				
		大園遺跡	有舌尖頭器 1、子持勾玉 1、滑石製模造品（勾玉 1 紡錘車 1）						
		池上曾根遺跡	弥生土器（甕 1、水差形 1、高杯 1、鉢 1、壺 1） 木製品（高杯 1、鉢 1、把手付鉢 1、斧の柄 1、布巻具 or 経巻具 1、用途不明品 1、小型四脚付盤 2、臼 1、杓子 2、鋤 3、簪 5、 レプリカ（男根 1、広楕 1、臼 1、杓子 1、鋤 1） 石器（錘 2、大型石庖丁 2、環状石斧 2、石斧 9、石槍 5、投弾 3、ヒスイ勾玉 1、管玉 5） その他（ガラス片 3、鹿角 1、骨製ヤス 2、骨器未製品 5、銅鏃 2、八稜鏡 1）						
		観音寺遺跡	文字瓦「信太寺」						
		信太寺跡	瓦（人物画像 1、「信太寺（陰刻 1、陽刻 1）」、「主引（陰刻 1）」、重弧文（軒丸 1、軒平 1）						
		池田寺跡	文字瓦（「池田」 3、「首」 1、「池田堂」 1、中世瓦 1） 軒丸瓦（重弧文 1、単弁蓮華文 山田寺式 4、軽寺式 1、池田寺式 2） 軒平瓦（均整唐草文 1）、石製順方 1						
		和泉寺跡	平瓦 2、軒平瓦 1、軒丸瓦（複弁蓮華文 3）						
		萱振遺跡	弥生中期（壺 1）、弥生後期（長頸壺 1、無頸壺 1、壺蓋 1） 土師器（壺 1）、須恵器（高杯 1、蓋 1、杯 1、杯蓋 1、ワカ 1） 埴輪（円筒 1、衣笠 6）、石（勾玉 4、紡錘車 2、白玉 8） その他（写真パネル一式）						
		8	府立三国丘高等学校			向泉寺跡	瓦（軒丸 10、軒平 8、兎 3、雁振 1） 瓦器（椀 7）、土師器（皿 11）、備前（すり鉢 1） 土師質（羽釜 1）、陶磁器 5、硯 1	48	日本史教育の資料とするとともに、地域府民への紹介
		9	大阪府教育センター			陶器窯跡群	瓶子 2、短頸壺 1、長頸壺 1、蛸壺 1、杯身 7、杯蓋 5 杯身溶着 1、平瓶 1、高杯身 1、高杯蓋 1、無蓋高杯 1、搦鉢 1、提瓶 1、甕 1、ハソウ 1	26	来所者に資料を紹介し、考古学の普及を図る
10	泉大津市教育委員会	池上曾根遺跡	炭化米（286 M地点 B溝 黒色粘質土層）	1	池上曾根弥生学習館の常設展示資料				
11	大阪府立茨田高等学校	茨田安田遺跡	弥生土器（壺 2） 須恵器（杯 5、高杯 3、碗 1、甕 4、その他 1、こね鉢 1） 韓式系土器（甕 1） 土師器（甕 5、高杯 3、碗 1、皿 4） 瓦器（椀 31、皿 1、火鉢 1） 磁器（碗 2） 石製品（砥石 1） 木製品（下駄 2、箸 2、人形首 1） 土製品（土錘 1） 金属製品（キセル 1） その他（加工骨 1） パネル 16	92	授業に活用				
12	交野市教育委員会	大谷北窯	須恵器（杯 14、杯蓋 9、甕 1、脚部 1、破片 21） 埴輪（破片 3）	49	交野市立教育文化会館内 歴史民俗資料展示室の常設展示				
13	宮崎県立西都原考古博物館	陶器窯跡群	須恵器 109	109	西都原考古博物館での展示・研究活動・教育普及				
14	府立狭山池博物館	池尻城跡	冴金 1	2	博物館の常設展示				
		大和川今池遺跡	鋤 1						
15	太子町教育委員会	伽山古墓	銀製帯金具（レプリカ）	7	太子町立竹内街道歴史資料館での常設展示				
		伽山遺跡	須恵器（杯 1、器台 2、平瓶 1） 土師器（高杯 1、坏 1）						
16	府立茨木高等学校	新庄遺跡	弥生土器（壺 2、甕 2、鉢 2、蓋 3） 磨製石斧 5	14	教材として展示、活用				
17	国立歴史民俗博物館	池上曾根遺跡	石包丁 3	3	総合展示第 1 展示室（「稲と倭人」）における展示資料				

件数	申請者	遺跡	資料内容	点数	目的
18	大阪府 府民文化部 (ドーンセンター)	大坂城跡 (ドーンセンター調査地点)	鍋蓋 1、しゃもじ 2、玉杓子 2、串 2、金箸 1、箸 11、楊枝 2、脚付膳 1、漆椀 2、土師質土器皿 1、瀬戸灰釉皿 1、櫛 3、骨製筭 2、銅製筭 1、紅皿 1、毛抜き 1、すごろく駒 1、碁石 3、羽子板 2、木製人形 3	43	府立ドーンセンター 4F 展示コーナーに展示
19	豊能町教育委員会	余野城跡	砥石 1、瓦器 19、土師器 8、中世陶器 4、備前播磨鉢 1、丹波焼甕 1、羽釜 1	35	豊能町立郷土資料館の展示資料
20	吹田市立博物館	吉志部瓦窯跡	軒丸瓦 (単弁十六葉蓮華紋 1)、平瓦 1、緑釉陶器片 2、緑釉瓦片 6、窯道具 6	16	吹田市立博物館の常設展示資料
21	吉志部神社	吉志部瓦窯跡	軒丸瓦 (複弁八葉蓮華文 1)、軒平瓦 (均整唐草文 1)、緑釉瓦片 2、トチン 2	6	吉志部神社事務所玄関ロビーに展示
22	能勢町教育委員会	大里遺跡 上樁遺跡 尾道遺跡 九ノ坪遺跡	弥生土器 (壺 1、甕 3、無頸壺 1、鉢 1、蓋 1、高杯 1) 土師器 (壺 1、杯 2、甕、器台 1) 須恵器 (杯 2、甕 3) 石庖丁 4、石斧 3、石錘 1、石鏃 7 須恵器 (甕 1) 須恵器 (杯 1、蓋 2、円面硯 1) 土師器 (高杯 1) 黒色土器 (碗 2) 土師器 (小皿 3)	46	能勢町住民サービスセンター 内能勢町歴史資料室の充実
23	九州国立博物館	法蓮坂遺跡	銅印「當氏之印」(府指定有形文化財)	1	常設展示「海の道、アジアの路」
24	藤井寺市立図書館	三ツ塚古墳	小修羅	1	図書館展示室
25	箕面市教育委員会	箕面経塚	和鏡 3、銅銭 4、青白磁合子 (蓋 1、身 2)、青白磁小壺 (蓋 1、身 2)、褐釉壺 1	14	箕面市立郷土資料館 常設展示

表 6 実物資料・複製資料短期貸出

件数	申請者	遺跡	資料内容	点数	目的
1	個人	八尾南遺跡 国府遺跡	石器 21 石器 5	26	サヌカイト製石器の産地同定
2	韓国・福泉博物館	雁屋遺跡 川北遺跡	弥生土器 2 弥生土器 1	3	国際交流展『日本古代文化への招待』に展示
3	個人	小島東遺跡	動物遺体 多数		遺存体の種の同定
4	個人	日下遺跡	ト骨 1	1	遺存体の種の同定
5	大阪歴史博物館	部屋北遺跡 小島東遺跡	U字形土製品 1、紡錘車 7、管玉 4、砥石 6、鉄鎌 5、刀子 2、鉄製馬具 5 (府指定)、輪鏝 1 (府指定)、鉄鏃 3、羽口 3、など 鹿角製刀装具 1、羽口 1、スラグ 2、製塩土器 6、刀子把 1 など	48	特別企画展『都市大阪の起源を探る 難波宮前夜の王権と都市』に展示
6	府立近つ飛鳥博物館	シシヨツカ古墳 アカハゲ古墳 池島・福万寺遺跡	ガラス玉 10 連、朱付着凝灰岩 3 黄褐釉円面硯蓋 1 縄文土器 1、弥生土器 1、土師器 4、イノシシ牙製装飾品 1、翡翠勾玉 1	22	夏季企画展『古代人がみた色と光 一色彩と輝きの考古学』に展示
7	太子町教育委員会	シシヨツカ古墳 加納 2 号墳 駕籠田古墳 アカハゲ古墳 ツカマリ古墳	須恵器 7、小札 2、銀象嵌金具 2、金象嵌金具 1、鉄鏃 3、漆塗籠棺片 2、凝灰岩片 1 須恵器 5、鉄刀 1、凝灰岩片 1 管玉 1 黄褐釉円面硯蓋 1 須恵器 3、陶製棺台片 3、榛原石片 1	34	竹内街道歴史資料館での企画展『国指定史跡二子塚古墳と大方墳の時代』に展示
8	藤井寺市教育委員会	古室山古墳 大鳥塚古墳	円筒埴輪片 コンテナ 2 箱 円筒埴輪片 コンテナ 1 箱	3	関係資料の集成・調査
9	四條畷市教育委員会	更良岡山遺跡 砂遺跡	縄文土器 1 縄文土器 5、土偶 2、石器 5	13	歴史民俗資料館での特別展『ヒスイのきらめきー北河内からみた交流と縄文のまつり』に展示
10	府立狭山池博物館	部屋北遺跡	土器 (須恵器・土師器・韓式系等) 133、石製品 126、鉄製品 24、骨角製品 22、木製品 29、動物遺存体 138、製塩土器 11、土製品その他 18	501	特別展『河内の開発と渡来人ー部屋北遺跡の世界ー』
11	府立弥生文化博物館	上寺山古墳	土器 (須恵器・土師器) 16、鉄製品 17	33	秋季企画展『キリシタン墓とその歴史ー摂津の人々が生きた証ー』
12	滋賀県立陶芸の森	旧大阪博物場	湖東焼 2	2	特別展『珠玉の湖東焼』

件数	申請者	遺跡	資料内容	点数	目的
13	堺市博物館	安松田遺跡	平瓦 2	2	みはら歴史博物館の特別展『河内鑄物師の誇りⅢーよみがえる東大寺の大仏ー』
14	和泉市教育委員会	池浦遺跡	弥生前期 甕 1 弥生前期 双耳鉢 1	2	いずみの国歴史館 冬季特別展『回顧 池上曾根遺跡のいま・むかし』
15	府立近つ飛鳥博物館	大和川今池遺跡	細頸壺 1、緑釉片 2、土師杯 1、倭櫃板材 5	28	冬季企画展『歴史発掘 おおさか2016』および、特別展示『近つ飛鳥の後・終末期古墳』
		大園遺跡 井戸 1	須恵器(筒形器台 1、杯蓋 1、把手付鍋 1)		
		大園遺跡 土器列	須恵器(壺 2、高杯 2、鉢 1、器台 1)		
		大園遺跡 包含層	須恵器(把手付碗 3、樽形ハソウ 2、ハソウ 1、杯蓋 1、高杯 2、壺 1、鉢 1)		
		シシヨツカ古墳	須恵器(無蓋高杯 4、甕 2、四耳壺 1)、小札 16、大刀装具(亀甲文 2、勾玉文 1、雲龍文 1)、ガラス玉		
	お亀石古墳	平瓦 1			
16	大阪歴史博物館	部屋北遺跡	陶質土器(鳥足文タタキ) 3、甕 3、鍋、甕、羽釜、当て具、カマド 2、U字形 2、子持勾玉、紡錘車(石 3、土 4)、鞍レブリカ、ト骨、下駄 2	43	特別展『渡来人いずこより』で展示
		安威遺跡	甕(甕を加工)、甕		
		岸之本南遺跡	甕、壺、当て具		
		萱振遺跡	V様式系甕(格子タタキ) 6片		
		福万寺遺跡	V様式系甕(格子タタキ)、弥生土器		
		池島遺跡	陶質土器、土師甕、鉢		
		三軒屋遺跡	新羅土器(高杯)		
17	弘前大学 人文社会科学部	部屋北遺跡	イネ種子 60粒 (GK-1地点 溝 11 2層 2地点各 20粒、3層 2地点各 10粒)	60	イネの形態分析(非破壊)とDNA分析(破壊)
18	高槻市教育委員会	誉田御廟山古墳	円筒埴輪 1	42	今城塚古代歴史館における春季特別展『太田茶臼山古墳の時代ー王権の進出と三島ー』
		太田茶臼山古墳 C号陪冢	円筒埴輪 2		
		総持寺古墳群	埴輪(円筒 10、朝顔形 1、冢形 2、馬形 3) 須恵器(杯 1、杯蓋 2)		
		安威遺跡	須恵器(杯 3、杯蓋 1、器台 1、ハソウ 1、鉢 2) 土師器(ハソウ 2、高杯 2、台付鉢 1、平底鉢 1、壺 1、甕 2、管玉 1)		
19	関西大学博物館	国府遺跡	縄文土器 31 石剣未製品 1 石鏃 2 旧石器(第3地点) 29 旧石器(第6地点) 5	68	関西大学 2017 年度春季企画展『河内国府遺跡発掘 100 周年』
20	長曾根町内会	長曾根遺跡	土師器 皿 11 須恵器 蓋・長頸瓶ほか 5	16	自治会館における長曾根遺跡の展示会

表 7 資料撮影、写真・図面等貸出・掲載

件数	依頼者	撮影掲載貸出	種類	遺跡等	内容	点数	目的/掲載誌
1	(株)新風書房	掲載	写真	池尻城跡 1986年度	調査区全景	1	『大阪春秋』162号
2	韓国・福泉博物館	貸出・掲載	写真	堂山1号墳	墳丘全景・副棺副葬品埋納状況	6	国際交流展『日本古代文化への招待』
				雁屋遺跡 1986年度	全景・1号方形周溝墓		
				川北遺跡 1980年度	全景・土器出土状況		
3	(株)吉川弘文館	貸出・掲載	写真(デジタル)	三ツ塚古墳	大修羅・小修羅	1	『日本古代の交通・交流・情報3 遺跡と技術』
4	大園遺跡出土埴輪検討会	使用・提示	写真	大園遺跡	埴輪	39	日本考古学協会第82回総会での発表
				摩湯山古墳	埴輪		
5	個人	撮影・掲載	写真	八尾南遺跡	第3地点の旧石器	28	『由良大和古代文化研究協会研究紀要』第21集
				国府遺跡 546年度	第3地点の旧石器		
6	大阪府立近つ飛鳥博物館	貸出・掲載	写真	堂山1号墳	玉類	2	夏季企画展『古代人がみた色と光ー色彩と輝きの考古学ー』
				シシヨツカ古墳	ガラス玉		
7	戎光祥(株)	貸出・掲載	写真(デジタル)	大坂城跡	太閤樹	1	外岡慎一郎『大谷吉継』
8	(株)洋泉社	掲載	写真	蕃上山古墳	甲冑埴輪	5	『歴史 REAL 天皇と争乱の古代史』
				部屋北遺跡	馬埋葬土壌・仔馬の歯・馬具		
				堂山1号墳	三角板革綴短甲		

件数	依頼者	撮影掲載貸出	種類	遺跡等	内容	点数	目的/掲載誌
9	藤井寺市政策企画部	掲載	写真	三ツ塚古墳	大修羅出土状況 小修羅展示状況	3	『暮らしのガイドブック2016』
10	水なす まるも	掲載	図面	信達市場	町並連続ファサード	1	HPに掲載
11	(株) ベストセラーズ	貸出・掲載	写真 (デジタル)	大坂城跡	太閤樹	1	『歴史人』9月号 石田三成の真実
12	府立狭山池博物館	貸出・掲載	写真	薮屋北遺跡	遺構写真(全景・出土状況・井戸) 遺物写真(カマド・井戸内出土遺物集合・鉄鍛冶関係)	28	特別展『河内の開発と渡来人ー薮屋北遺跡の世界』
13	立命館大学文学部	掲載	写真	摩湯山古墳 久米田古墳群 貝吹山古墳	航空写真 S48 航空写真 S48 航空写真 S48	3	『久米田古墳群発掘調査報告書』
14	(公財) 滋賀県陶芸の森	貸出・掲載	写真	府立大阪博物館 旧蔵 美術工芸品	湖東焼	2	特別展『珠玉の湖東焼』
15	府立狭山池博物館	撮影・掲載	写真	薮屋北遺跡	大溝・井戸等出土土器集合 鉄製品集合 木製品集合 卜骨	17	特別展『河内の開発と渡来人ー薮屋北遺跡の世界』
16	個人	掲載	写真	崇禅寺遺跡	須恵器出土状況	3	『大阪春秋』東淀川区まんだら
17	太子町教育委員会	貸出・掲載	写真	加納2号墳	遠景・玄室・大刀出土状況等	32	企画展『国指定史跡二子塚古墳と大方墳の時代』
				シシヨツカ古墳	近景・墳丘・石室・銀象嵌大刀・金象嵌鞍金具・挂甲・漆塗籠棺		
		撮影・掲載	写真	アカハゲ古墳	墳丘・石室	9	
				ツカマリ古墳	墳丘・石室・緑釉陶棺台		
18	個人	貸出・掲載	写真 (デジタル)	加納2号墳	墳丘	4	世界考古学会議 京都大会での発表
				加納2号墳	須恵器		
				加納2号墳	須恵器		
				加納2号墳	須恵器		
19	藤井寺市教育委員会	撮影・実測	写真・図	加納2号墳	須恵器	1箱 1箱	資料の集成・調査
				加納2号墳	須恵器		
				加納2号墳	須恵器		
				加納2号墳	須恵器		
20	四條畷市教育委員会	貸出・掲載	写真 (一部デジタル)	はざみ山遺跡	旧石器時代の住居跡・復元住居・旧石器集合	7	特別展『ヒスイのきらめきー北河内からみた交流と縄文のまつり』
				砂遺跡	全景、石皿・磨石・土器棺・集石出土状況		
		撮影・掲載	写真	はざみ山遺跡	旧石器住居跡・復元住居	10	
				砂遺跡	縄文土器(鉢・浅鉢)、土偶、石皿・磨石・石斧・石刀		
21	府立狭山池博物館	貸出・掲載	写真	薮屋北遺跡	ウシ、シカ、イノシシ、イヌ、タヌキ等動物化石	25	特別展『河内の開発と渡来人ー薮屋北遺跡の世界』
22	滋賀県立安土城考古博物館	掲載	写真	難波宮跡	木簡(戊申銘 表裏)	2	秋季特別展『飛鳥から近江へー天智天皇の意図を探るー』
23	府立弥生文化博物館	貸出・掲載	写真 (デジタル)	上寺山古墳	カマド塚調査時	1	秋季企画展『キリシタン墓とその歴史ー摂津の人々が生きた証ー』
24	天理大学附属天理参考館	貸出・掲載	写真 (デジタル)	薮屋北遺跡	馬埋葬土坑	1	『天理の古墳文化を学ぶ』(仮称) (平成28年度文化庁 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業)
25	(株) 雄山閣	貸出・掲載	写真 (デジタル)	薮屋北遺跡	航空写真、馬埋葬土坑 馬具(鞍、鐙、轡)	5	『季刊考古学』第137号 特集「古墳時代ー渡来人の考古学」
26	堺市博物館(みはら歴史博物館)	貸出・掲載	写真 (デジタル)	安松田遺跡	出土瓦集合、調査地全景、174土坑	3	特別展『河内鑄物師の誇りIIIーよみがえる東大寺の大仏ー』
27	和歌山県立紀伊風土記の丘	掲載	写真	西小山古墳	墳丘の写真	1	秋季特別展『岩橋千塚とその時代ー紀ノ川流域の古墳文化ー』
28	和歌山県立紀伊風土記の丘	掲載	写真	西小山古墳	円筒埴輪の掲載写真	1	秋季特別展『岩橋千塚とその時代ー紀ノ川流域の古墳文化ー』
29	生駒ふるさとミュージアム	貸出・掲載	写真 (デジタル)	薮屋北遺跡	馬埋葬土坑	1	企画展『生駒山をめぐる東と西の交流ー古墳時代の馬からみた奈良と大阪ー』リフレット

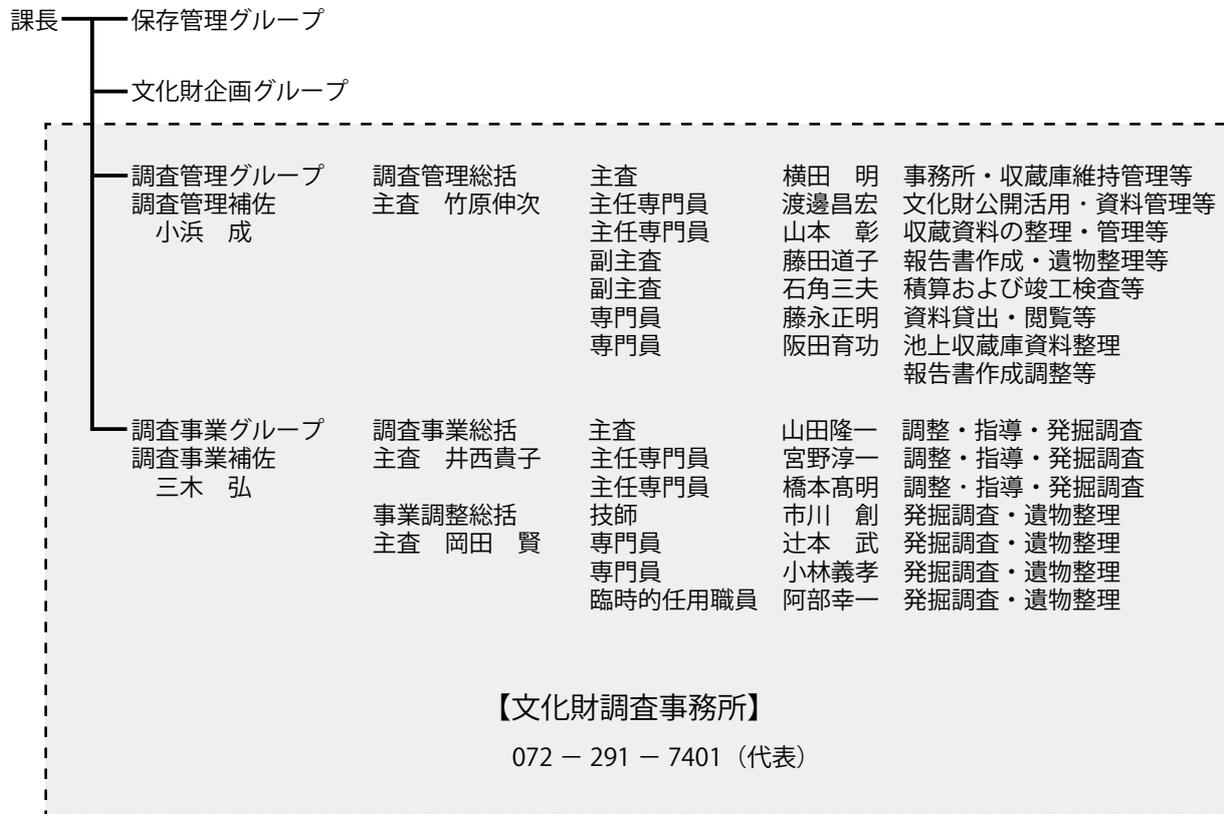
件数	依頼者	撮影掲載貸出	種類	遺跡等	内容	点数	目的/掲載誌		
30	高槻市教育委員会	撮影・掲載	写真	菅田御廟山古墳	円筒埴輪	47	特別展『太田茶白山古墳の時代』		
				太田茶白山古墳	円筒埴輪				
				C号陪冢	円筒埴輪				
				総持寺古墳群	円筒埴輪				
				安威遺跡	須恵器ほか				
31	府立狭山池博物館	掲載	写真	薮屋北遺跡	遠景、北東住居域全景、馬埋葬遺構、 竪穴住居、大溝、馬具出土状況、U字 形土製品、滑石製模造品、ガラス玉、 韓式土器、製塩土器	14	特別展『河内の開発と渡 来人—薮屋北遺跡の世界 —』		
32	府立狭山池博物館	撮影・掲載	写真	薮屋北遺跡	石製品（勾玉、白玉、双孔円盤、剣形 と鏡形、紡錘車）、土玉、鉄製品（鎌、鍬、 刀子）、砥石、鉄滓、ふいご、鹿角製品、 カマド、甌、あて具、馬歯	44	特別展『河内の開発と渡 来人—薮屋北遺跡の世界 —』		
33	百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進本部会議	掲載	写真	津堂城山古墳	「石棺発見當時に於ける故坪井博士の調査」『大阪府史蹟名勝天然記念物調査報告』第五輯	1	リーフレット『Mozu-Furuichi Kofun Group : Mounded Tombs of Ancient Japan』		
34	(株) A5	貸出・掲載	写真 (デジタル)	大坂城跡	金箔瓦（大阪府HPの上段）	1	日立ソリューションズのHP内のコラム「現代に通じる経営のヒント～城のストラテジー」		
35	(株) 平凡社	貸出・掲載	写真 (デジタル)	応神陵古墳	円筒埴輪	3	別冊太陽『考古資料から見える古墳時代の歴史と美』		
			薮屋北遺跡	馬埋葬土坑					
36	藤井寺市教育委員会	貸出・掲載	写真 (デジタル)	大師山古墳	碧玉製鍬形石・車輪石	5	藤井寺市遺跡ガイドブック No.9 藤井寺市遺跡ガイドブック No.14 各再版分		
				萱振一号墳	埴輪列				
				衣縫廃寺	瓦（飛鳥時代）				
				シシヨツカ古墳	埋甕内高杯、奥室全景				
37	府立近つ飛鳥博物館	貸出・掲載	写真 (デジタル)	寛弘寺 5号墳	全景	4	H 28 年度第 1 回スポット展示の展示パネル等		
				寛弘寺 17号墳	出土人物埴輪				
				寛弘寺 55号墳	西周溝 供献土器群				
				寛弘寺 83号墳	西周溝内 埴輪群				
38	東大寺	貸出	図面	河内国分寺跡	塔跡 測量図面（調査時 1/20）	2	東大寺の塔跡調査の参考資料として		
39	堺市博物館	貸出・掲載	写真 (デジタル)	陶器	T K 7 3 遠景・全景	3	常設展示用のパネル		
					T K 8 7 全景				
40	府立近つ飛鳥博物館	貸出・掲載	写真 (デジタル)	シシヨツカ古墳	近景、亀甲繫鳳凰文銀象嵌 大刀柄頭、 奥室全景、羨道部埋甕内 高杯出土状況、 挂甲小札・付属具各類、ガラス玉	15	H28 冬季企画展『歴史発掘 おおさか 2016』		
				アカハゲ古墳	全景				
				ツカマリ古墳	全景				
				お亀石古墳	石槨を取り巻く平瓦、平瓦				
				大和川今池遺跡	井戸				
				大園遺跡	井戸 1 遺物出土状況、井戸 1 出土筒形器台、溝遺物出土状況、溝出土初期須恵器集合				
41	有限会社 マイプラン	貸出・掲載	写真 (デジタル)	大坂城跡	京樹	1	『超ビジュアル！歴史人物伝 豊臣秀吉』		
					薮屋北遺跡			百濟系土器、航空写真、C区全景、移動式カマド、U字形土製品 2、井戸材出土状況、馬埋葬土坑、木製鞍、轡、輪燈、下駄	
42	大阪歴史博物館	掲載	写真	薮屋北遺跡	狭山池博撮影分（羽釜、鍋、甕、下駄、 卜骨） 大阪歴史博撮影分（甌、カマド、 当て具、甕、子持ち勾玉、紡錘車）	23	平成 29 年度特別展『渡 来人いずこより』		
				安威遺跡	甕、甌				
				岸之本南遺跡	甌、壺、当て具				
				萱振遺跡	格子タタキの甕片				
						福万寺遺跡	格子タタキの甕片、甕		
						池島遺跡	陶質土器		
						三軒屋遺跡	新羅土器（高杯）		
						新堂廃寺	遠景（空中写真）		
43	府立近つ飛鳥博物館	貸出・掲載	写真	平石谷	全景（空中写真）	6	「親から子に伝える、近 つ飛鳥の歴史遺産価値創 造事業」に伴う遺跡デー タベースおよび広報資料		
				加納古墳群	全景				
				シシヨツカ古墳	近景・石室				
				山城廃寺	調査区全景				
44	藤井寺市	貸出・掲載	写真 (デジタル)	藤の森古墳	石室	5	百舌鳥・古市古墳群に関するブックレット		
				蕃上山古墳	墳丘の写真				

件数	依頼者	撮影掲載貸出	種類	遺跡等	内容	点数	目的/掲載誌
45	大阪大学出版会	掲載	実測図	安威遺跡	住居 24 の甕 (韓式系)	1	中久保辰夫『日本古代の 国家形成過程と対外交 流』
46	近鉄グループホ ールディングス 株式会社 (近畿 文化会)	貸出・掲載	写真 (デジタル)	シシヨツカ古墳 駕田古墳 アカハゲ古墳 ツカマリ古墳	近景 墳丘全景 墳丘・壇全景 墳丘全景	4	『近畿文化』第 807 号
47	ユニオン映画株 式会社	貸出・掲載	写真 (デジタル)	大坂城跡	京柵	1	B S 日テレ『片岡愛之助 の解明! 歴史捜査』で放 映
48	個人	掲載	写真	古室遺跡 (大水 川旧河道) 河内国分寺 (金 堂地区) 応神陵古墳 (大 水川旧河道) 青谷遺跡	瓦 (軒丸 1、丸 2) 瓦 (軒丸 1、軒平 1) 瓦 (軒平 2、平 1) 瓦 (軒平 1)	9	『古代瓦研究』VII 「河内 地域の 6282 - 6721 系 軒瓦」
49	個人	掲載	写真	吉志部瓦窯	瓦 (軒丸 1)	1	『考古学雑誌』98 巻 2 号 「平安京初期の造瓦組織」
50	堺市	掲載	写真	桜塚古墳群	東群の写真 (遠景 昭和 10 年)	1	第 6 回百舌鳥古墳群講演 会記録集『検証! 河内政 権論 -なぜ百舌鳥に大王 陵が築かれたのか-』
51	大阪歴史博物館	掲載	写真	薮屋北遺跡	木製下駄 (図 669-1、680-10)	2	平成 29 年度特別展『渡 来人いずこより』
52	羽曳野市	貸出・掲載	写真 (デジタル)	誉田白鳥遺跡	埴輪窯跡 (全景・遠景)	2	説明版「史跡 誉田白鳥 埴輪製作遺跡」
53	高槻市教育委員 会	貸出・掲載	写真	安威遺跡 太田茶臼山古墳 総持寺遺跡	全景、住居址 1、2、16、19 埴輪検出状況 23 号墳	13	今城塚古代歴史館におけ る春季特別展 『太田茶臼山古墳の時代 -王権の進出と三島-』
54	朝日新聞 榎原 支局	貸出・掲載	写真 (デジタル)	誉田御廟山 (応 神陵) 古墳	円筒埴輪	2	朝日新聞 奈良版
55	(株) 碧水社	貸出・掲載	写真 (デジタル)	大坂城跡	京柵	1	『週刊ビジュアル戦国』 43 号
56	(株) 新泉社	掲載	写真	東郷遺跡	特殊器台	1	秋山浩三『弥生時代のモ ノとムラ』
57	河南町教育委員 会	貸出・掲載	写真 (デジタル)	加納古墳群 シシヨツカ古墳 アカハゲ古墳 ツカマリ古墳 寛弘寺 17 号墳	全景 奥室全景、羨道部埋甕 墳丘全景 羨道全景 巫女型埴輪	6	カルタの取り札
58	河南町教育委員 会	貸出・掲載	写真 (デジタル)	アカハゲ古墳 ツカマリ古墳	墳丘全景 貼石・敷石	2	『河南町遺跡マップ』
59	河南町教育委員 会	貸出・掲載	写真 (デジタル)	加納古墳群 シシヨツカ古墳 アカハゲ古墳 ツカマリ古墳 寛弘寺 17 号墳	全景 奥室全景、羨道部埋甕 墳丘全景 羨道全景 巫女型埴輪	6	「河南町を歩こう! てく てくかなん」の関連事業 の冊子
60	和泉市教育委員 会	貸出・掲載	写真 (デジタル)	和泉寺跡	文字瓦「玠縣主廣足作」 同「坂合部連前」	2	和泉市史紀要 26 集『和泉 市史編さん事業 20 周年 「市史だより」100 選』
61	関西大学博物館	貸出・掲載	写真 (デジタル)	国府遺跡	旧石器の集合写真	2	関西大学 2017 年度春季 企画展『河内国府遺跡発 掘 100 周年』
62	八尾市教育委員 会	貸出・掲載	写真	萱振遺跡 八尾南遺跡 亀井遺跡 志紀遺跡 田井中遺跡 木の本遺跡 成法寺遺跡 中の谷古墳 信貴山城			『新版 八尾市史 考古編 1 -遺跡からみた八尾 の歩み-』
63	奈良文化財研究 所	掲載	図面	禅寂寺	伽藍平面復元図、塔跡東西断面、南面 立面および平面図	2	『韓・中・日古代寺址比 較研究 (1) -木塔編- 国立扶余文化財研究所 学 術研究叢書 第 49 輯』
64	国立歴史民俗博 物館	掲載	写真	陶邑	TG 207 号窯の焼け歪んだ須恵器	1	国立歴史民俗博物館 総合 展示 第 1 展示室のパネル
65	羽曳野市	掲載	写真 (デジタル)	津堂城山古墳	後円部の石室と長持形石棺 (大阪府史蹟名勝天然記念物調査報告 第五巻)	1	『世界遺産をめざすふる さとの文化財 古市古墳 群』

表8 資料閲覧

件数	申請者(所属)	閲覧資料	目的	閲覧場所
1	個人(放送大学)	ロビー展示品 須恵器・窯跡群	研究	調査事務所
2	大阪歴史博物館	菟屋北遺跡の出土遺物、小島東遺跡の出土遺物	展示	調査事務所
3	個人(御所市教育委員会)	大園遺跡の埴輪 1975年度分	研究	池上収蔵庫
4	個人(御所市教育委員会)	大園遺跡の埴輪 1975年度分	研究	池上収蔵庫
5	個人	国府遺跡の埴輪	研究	池上収蔵庫
6	滋賀県立 陶芸の森	湖東焼(旧府立博物館コレクション)	展示	調査事務所
7	個人(大阪大学大学院)	珠金塚古墳の埴輪	研究	池上収蔵庫
8	東大阪市教育委員会	瓢箪山古墳の出土遺物	研究	調査事務所
9	羽曳野市教育委員会	誉田八幡護国寺跡の調査図面	研究	調査事務所
10	個人(大阪大学大学院)	銭塚古墳の埴輪	研究	調査事務所
11	狭山池博物館	菟屋北遺跡の土器・土製品	展示	調査事務所
12	狭山池博物館	菟屋北遺跡の鉄・石・木製品	展示	調査事務所
13	狭山池博物館	菟屋北遺跡の動物遺存体ほか	展示	調査事務所
14	太子町教育委員会	シシヨツカ古墳等の出土遺物	展示	調査事務所
15	個人	国府遺跡の埴輪	研究	調査事務所
16	個人(大阪府文化財センター)	津堂遺跡の出土遺物(古墳前期)	研究	池上収蔵庫
17	藤井寺市教育委員会	古室山・大鳥塚古墳の埴輪	研究	調査事務所
18	弥生文化博物館	上寺山古墳の出土遺物	展示	調査事務所
19	個人(大阪府文化財センター)	津堂遺跡(1973)の現地図面	研究	調査事務所
20	個人(山口大学)	藤の森古墳の鉄製品	研究	調査事務所
21	堺市博物館	安松田遺跡の瓦・土師器	展示	調査事務所
22	四條畷市教育委員会	更良岡山・砂遺跡の縄文土器・石器	展示	池上収蔵庫
23	個人(大阪大学) 個人(韓国国立文化財研究所)	菟屋北遺跡の土師器・韓系系土器	研究	調査事務所
24	大阪歴史博物館	萱振・東郷遺跡等の韓系系土器	展示	調査事務所
25	個人(東海大学) 個人(京都大学)	日下貝塚の馬 全身骨格(旧堅田資料)	研究	調査事務所
26	個人(大阪大学大学院)	青山古墳群 2号墳の円筒埴輪	研究	調査事務所
27	個人(大阪大学大学院)	青山古墳群 2号墳の円筒埴輪	研究	調査事務所
28	個人(大阪大学大学院)	青山古墳群 2号墳の円筒埴輪	研究	調査事務所
29	個人(東海大学)	日下貝塚の馬 全身骨格(旧堅田資料)	研究	調査事務所
30	富田林市 文化財課	大坂城跡の陶磁器	研究	泉北収蔵庫
31	個人(大園遺跡出土埴輪検討会)	大園遺跡の埴輪	研究	池上収蔵庫
32	個人(大園遺跡出土埴輪検討会)	大園遺跡の埴輪	研究	池上収蔵庫
33	個人(大園遺跡出土埴輪検討会)	大園遺跡の埴輪	研究	池上収蔵庫
34	大阪歴史博物館	菟屋北遺跡の木製下駄	展示	調査事務所
35	個人(大園遺跡出土埴輪検討会)	大園遺跡の埴輪	研究	池上収蔵庫
36	個人(大園遺跡出土埴輪検討会)	大園遺跡の埴輪	研究	池上収蔵庫
37	大手前大学 史学研究所	大坂城三の丸(大手前高校)の現地図面	研究	調査事務所
38	関西大学 博物館	国府遺跡の旧石器、縄文土器・石器	展示	調査事務所
39	個人(大阪府文化財センター)	安威遺跡の初期須恵器・土師器 総持寺遺跡の初期須恵器	研究	調査事務所

平成 29 年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図



大阪府教育庁文化財調査事務所年報21

発行日 2017年11月30日

発行 大阪府教育委員会

〒540-8571

大阪市中央区大手前二丁目

TEL06-6941-0351 (代表)

編集 大阪府教育庁 文化財調査事務所

〒590-0105

堺市南区竹城台三丁目21-4

TEL072-291-7401

印刷 株式会社 近畿印刷センター

〒582-0001

柏原市本郷五丁目 6 番25号

TEL072-972-5918